明治三十五年十月二十一日發行（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百五拾五號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十五日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百五十五號　目次

本會講演

高崎支會講演

寄書

衛生雜話

質疑欄

衛生時事

食物調理法

中外彙報

大日本婦人衛生會記事

●十一月例會報告

來る十一月一日(第一土曜日)午後正一時より麹町虎之門東京女學館講堂に於て開く(晴雨共)左記之講演有之候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會有之度候也

追而開會時間厲行●衣服御質素の事

家庭看護法(前回の續)　醫學博士　三宅秀君

初めて就學せし兒童　醫學博士　三島通良君

●會告

本年は雨量殊に多く氣候不順の結果コレラ赤痢は猛烈の勢を以て蔓延しペストは俄然横濱に發生するに至り實に容易ならさる出來事なり此時に方り個人衛生上の注意は層一層周密を要すべきは勿論なれば本會はます／＼同志を糾合して大に擴張を圖らんと欲する所以なりとす會員諸氏よ願くは此意を諒としてます／＼本會擴張の爲め助力せられんことを

因に記す本月以後會員紹介の方々には其人數に應じ本會發行の雜誌を送呈可致候間宜敷會員御誘導の程懇願致候也

明治三十五年十月

大日本婦人衛生會

私立 大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんと皆ともに希はざるはあらじされども身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつはら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を置かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人相胥ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々を招請して衛生上諸般の談義演說談話を聽き互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに益すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其賛成を仰ふくことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立 大日本婦人衛生會規則

（明治廿二年十二月改正）

●第一章　目的

第一條　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を增進するにあり

●第二章　名稱位置

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

●第三章　會員

第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續は卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし

第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす

第六條　男子にして本會の旨趣を賛成する者は之を賛成員とす其會資は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に賛成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會資とすることあるべし

第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得

第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會資は總て返戻せず

●第四章　役員

第九條　本會に推薦員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす

第十條　本會に左の役員を置く
會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名

第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選舉し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし

第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす

第十三條　會長の見込を以て役員外特に會員中より臨時指名委員を置くことあるべし

第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺位を生するときは次點者を以て補缺す

第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す

●第五章　集會

第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし通常第一日曜日午後一時より開會するものとす總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし評議員會は時々開會須要の事項を評議するものとす

第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして臨席聽講せしむるものとす

第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を陪聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべきこと）

第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁す但賛成員若くは會員に緣故ある男子は此限にあらず

第二十條　規則の改正を要し又は重要の事件あるときは總會に於て議定するものとし議定は總て多數決とし可否同數なるときは議長之を決するものとす

第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし

●第六章　會計

第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす但些少の金額に限り日用支出の爲め事務所に引出置くことを得

第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす

第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

●第七章　支會

第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得支會は私立大日本婦人衛生會某支會と稱し其規則は本會の規則と牴觸せさる樣記案すべし

第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす

第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得

第廿八條　支會に加入したる本會々員に配付すべき本會の雜誌は支會に回送すへきを以て其費資を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ

第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●第八章　雜件

第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し毎會に於ける衛生上の講義演說談話等の雜記及內外彙報本會の諸報告等を揭け之を會員に配付すべし支會の報告あるとき又同じ

第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を簿册に登錄し尙

本會雜誌を以て報告すべし第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込局宛）振出しあるべし第卅四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし第卅五條　本規則は會長の意見又は會員二十名以上の賛成に依り總會の決議を經るに非ざれば之を更正することを得ず

事務所　東京市牛込區矢來町三番地六

私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

總裁　小松若宮依仁親王妃　周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
仝　羽田三緒子
仝　穗積歌子
仝　岡田德子
仝　高木かう子
仝　松平芳子
仝　三浦教子
評議員　石川さだ子
仝　濱田捨子
仝　仁禮壽賀子
仝　四升子
仝　男爵夫人　西郁子
仝　德宮靜子
仝　緒方悅子
仝　男爵夫人　川口直子
仝　男爵夫人　加藤鈴子
仝　吉武塚枝子
仝　子爵夫人　田中伊代子
仝　高橋孝子
仝　丹波貞子
仝　男爵夫人　南部限子
仝　中濱芳子
仝　岡山とし子
仝　山本多穗子
仝　子爵夫人　松前孫子
仝　子爵夫人　松井正子
仝　馬渡玉子
仝　伯爵夫人　松平光子
仝　子爵夫人　秋元宗子
仝　三宅藤子
仝　宮本樂子
仝　宮下咲子

●支會　千葉、新潟、山形、宇津宮、茨城、高崎

本會特別賛成員
（幷に本會に於て講演せられし諸氏）

醫學博士　入澤達吉君
理學博士　飯島魁君
ドクトル　伊澤信平君
地方視學官　色川圀士君
醫學士　伊東祐彥君
ドクトル　飯盛挺造君
醫學博士　伊藤隼三君
理學博士　石川千代松君
赤十字社病院長　岩井禎造君
新潟　池原康造君
同　池田潔君
前文部大臣　濱尾新君
醫學博士　濱田玄逸君
法學博士　鳩山和夫君
東京　萩原網四郎君
醫學博士　芳賀榮二郎君
衛生局長　長谷川泰君
新潟　長谷川一詮君
小兒科　小原賴之君
醫學士　林春雄君

醫學士　佐藤達次郎君
醫學博士　緒方正規君
步兵少佐　堀内文次郎君
醫學博士　土肥慶三郎君
醫學博士　岡田和一郎君
醫學博士　大澤謙二君
醫學士　大西秀治君
醫學博士　大澤岳太郎君
一等藥劑官　恩田重信君
醫學士　若杉喜三郎君
男爵　加藤弘之君
ドクトル　加藤照麿君
醫學士　賀古鶴所君
醫學博士　河本重次郎君
醫學博士　岡村清德君
醫學博士　片山國嘉君
醫學士　川上雅量君
ドクトル　金杉英五郎君
醫學士　笠原光興君
醫學博士　高橋順太郎君
ドクトル　高山紀齋君
醫學博士　高木兼寬君
法學博士　高木豐三君
醫學士　田代義德君
新潟　田代亮助君
男爵　高崎正風君
醫學士　竹中成憲君
醫學士　高田耕安君
新潟產科院長　高橋辰五郎君
藥學博士　丹波敬三君
醫學士　高橋貞碩君
藥學博士　田原良純君
醫學博士　坪井次郎君
醫學士　久保猪之吉君
醫學士　米山彥郎君

三等軍醫正　星野葆光君
一等軍醫　横井忠國君
大日本教育會長　辻新次君
理學博士　坪井正五郎君
中央衛生會長　故長與專齋君
ドクトル　長與稱吉君
男爵　南部甕男君
理學博士藥學博士　長井長義君
新潟　長井千壽君
醫學博士　中濱東一郎君
新潟　中村勇三郎君
醫學士　村松鐵三君
醫學博士　隈川宗雄君
醫學博士　栗本東明君
醫學士　山田織三君
大審院判事　馬屋原彰君
醫學士警視廳第三部長　山根正次君
岡山　山川春二君
醫學士　丸茂文良君
衛生試驗所技手　丸山長四郎君
松山病院　松山棟庵君
ドクトル　小柴信六郎君
盲啞學校長　小西信八君
廣島　小泉貫君
醫學士　古川榮君
東京　布施正誠君
臺灣民政長官　後藤新平君
帝國大學教授　エ、ベルツ君
醫學士　甲野棨君
文部書記官　寺田勇吉君
子爵　秋元興朝君
前軍醫總監　足立寬君
ドクトル　新井古芳君
新潟　阿部玄四郎君

高崎醫會長　土谷全次君
產科婦人科　水原漸君
醫學博士　佐々木政吉君
醫學士　淺田決君
ドクトル　朝倉文三君
ドクトル　朝山義六君
醫學博士　佐藤三吉君
醫學士　櫻井郁二郎君
醫學士　佐藤恆久君
ドクトル　佐伯理一郎君
ドクトル　榊順次郎君
醫學士　神保三郎君
醫學士　櫻井恆次郎君
醫學士　北村精造君
ドクトル　北川乙二郎君
醫學士　木下正中君
醫學士　北島小太郎君
醫學博士　北里柴三郎君
醫學博士　三浦守治君
醫學博士　三浦謹之助君
小兒科專門　宮本仲君
理學博士　箕作佳吉君
醫學博士　三島通良君
醫學博士　三宅秀君
醫學士　三輪信太郎君
新潟　水野欽君
伯爵　土方久元君
醫學士　島村俊一君
醫學博士　弘田長君
ドクトル　須川泉備君
ミス、ヒユース
醫學士　笹川三男三君
醫學士　波多野傳君
醫學博士　奥秀三君
八王子　和田義貫君



私立大日本婦人衛生會　幹事　鳩山春子

婦人衞生雜誌第百五十五號
(明治三十五年十月二十日發行)

講演

歐米旅行中に見聞せし一二節

醫學博士　大澤謙二
佃事務所員　高川文子速記

今日は何か皆樣に衞生上のお話を致すやうにと云ふことでございますが、特に是れぞと云ふ面白い考も有つて居りませぬ、先頃歐米へ參りました節に、一二氣の付いたことがございますからそれをお話を致さうと存じまする、

併しながら是れは直接衞生に關係した事ではないので、さう云ふことは割合に少ないのであります、それからして殊に御婦人向きと云ふやうなお話ではござへませぬ、其段は御斷はり申して置きます、

私は横濱から獨逸船に乘りまして、神戸長崎を經て上海に參りました、それまでは是れぞと申すこともありませぬが、上海に參りまして其城內即ち支那人の多く居ります所に參りました、所が隨分家の造りは宏壯なのも澤山ございますが、何分道幅が狹くして掃除が行屆かぬ、餘程不潔で、一緒に參りました歐羅巴人などは途中で逃歸つて仕舞ひました、

私は成るたけ珍らしい所を見たいから、諸方廻つて參りましたが、餘程市中の臭氣などは烈しいもので、中々日本橋の魚市場などにも讓らない位のもので、御婦人方には迚も我慢が出來ないであらうと思ふ位でありました、然るにそれ程不潔であつても、割合に支那にはさう傳染病が酷く多いと云ふことではありませぬ、虎列剌、腸窒扶斯、赤痢などゝ云ふものは、近年我國でも流行致しまして、是れが爲めに國家が損毛を被むることは隨分大なるものであります、支那では我國のやうな工合に調査が行き屆いて居らぬでございませうが、實際左程烈しくないやうに承ります、それは何故であるか、支那人は食

します物は大抵一度煮ましたもので、然かも温い内に食べる習慣で、それから冷水は飲ませぬ、それ故に水から這入りまする病氣、虎列剌、腸窒扶斯、赤痢とか云ふものが少ないのであらうと思ひます、僥倖に我國では段々水道が出來まして‥‥‥上水が出來ましてございますから、新鮮の水を飲むでも心配はないと云ふ世の中になりました、併し東京あたりで上水のみを使用しまする家の數をば承はつて見ますると、私どもが考へました所よりモウ少ない中々豫想通りに參つて居りませぬ、是れは是非共お互に話合つて成るたけ使用させたいものであると思ひます、御承知の通り東京では未だ下水が不完全で能く出來上がらぬ．で、慥か仙臺と思ひますが、上水に先つて下水が出來ました、所が其地では井戸の水が少くつて大に難澁する、水が少くなつて水の使用を制限しなければならぬことになつたと云ふことでございます、それは取も直さず是まで下水を飲んで居つたと云ふ證據である、井戸の水を使用致しますると、其所だけ水面が他より低くなりますから、從つて水の流れが此處に向ひます下水が爰に集まる透き通つて清潔の水のやうには思ひますが、之を化學的に檢査すると不潔物がある、即ち下水を直接に飲んで居つたと云ふ譯である、それでありますからして此下水を用ひて居る間は矢張病氣が多い、成るたけ上水を用ゆるか、それでなければ支那人流に致すことが宜からうと思ひます。

上海からして獨逸の兵士が三百名程、都合十二名程の士官が伴ひて乘込みました、是は支那の拳匪一件で參つた兵、最早用が無くなつて歸國致すのでありました、長い間の航海のことであり、兵卒は皆下等で參りまするから、どうしても其上中等の間より狹くもあるし愉快も無いので退屈を致す、それで航海中に度々兵士の慰みになるやうなことを致します、慰め競爭と云ふやうなことがありますが、それを一々申した所が詮ないことでありますから數へ立ては致しませぬが、最後に致しましたのは器械體操であ

ります、是は實に立派なもので、私どもは躰操のことは深く心得ませぬから感じも幾分か鈍かつたでありませうが、他の英人、米國人、獨逸人は勿論皆非常に其熟練に感服して居りました、是は一ア兵士の致すべき業務の一つであるから其筈であると思ひましたが、如何にも立派で私ども感服を致しました、ストラスボルクと云ふ所に往きました時に躰操の會がありました、それは州の躰操會で、是に參つて見ました所が中々盛大なるものでありました、其見物に參ります者が老幼男女皆競ふて參り、容易に見ることども出來ないと云ふ位の群集でありました、これも中々皆立派な致方であつたのですそれは州の會でありますから、諸方からして先づ選り抜きが集まつて來ると云ふ譯でありますから、立派であるべき筈である、公衆が躰操に注意を致し、見物人が何れも骨を折つて見やうと思ふ所は實に自から之を致す人に取つても一ツの勵みであらうと思ふ、獨逸では村の躰操會があり、それから郡の躰操會があり、州の躰操會がある、州の躰操會に出て一等賞でも得まするならば、其所の者が軍にでも勝つて歸つたかの如くに歡迎を致す、歐洲では何れの國でも躰操は力めるのであります、私が承はつた所では、就中獨逸が盛んであると云ふことでありましたが、如何にもさうでありさうである、斯程に人民全躰が躰操に注意する上は勵みが付く、我國でも躰操を必要と認めたならば、皆喜んで見るやうにならなければならぬ、それも今直ぐにと云ふことには行かぬが、自から躰操を致した人は又躰操を見て味を感ずることも大きに違がうであらう、競馬でございますとか、船漕ぎであるとか云ふことを致しても、自から致したことの無い人は左程に感じない半時間毎に一回で夫れも僅か五分か六分の間に勝敗が濟んで仕舞つて詰らぬことのやうに思ひますが、十分辨へた人ならば、此間に云ふに言はれぬ味があるさうでございます、そこで成るたけ多數の躰操を致す人が有り、見る人が多數になつて來たならば宜からうと思ふ、我國で

は英吉利流のスポルトが盛んに爲つて來ましたが、是は餘程宜しい事で先年獨逸政府からして人を送つて英吉利の體育の狀態を調べさせたことがございます、其時の報告に體操自身は左程でない、併し戶外遊戯に至つては實に眞似るべき價値のあるもの、是非共我國でも學ばなければならぬと云ふことてあつた、是は私が二十年程前にウエーバルと云ふ人の報告で見ましたが、今度實際行つて見ると、今の體操の外にいろ〳〵英吉利流の今日本で流行つて居るやうのもの、即ちロンテニスとかクリッケットとか云ふものが盛んに行はれて居る、婦人が澤山遣りますし、又婦人は一體體がしなやかで能く身動きが出來るので、男子と致しても却て婦人の方が、上手であるさうです、是れは我國でも婦人の學校あたりではそろ〳〵流行り出しましてございますが、どうか一層盛に致したいものと思ひました、彼れはどうしても身動きが出來ぬと仕かぬのでありますから、袖は筒袖、それからして衣服の裾は膝まで位にして、靴と袴、斯うなければ出來ないと云ふことでございます、是れまで段々衣服の改良の話も出ましてございますが、どうも別段に是れぞと云ふものもございませぬから今申した樣な服裝に立至つて居ると思ひますが追々此等の運動の流行るやうになり、それからしてお母さんも昔は自身で成さつたので其巧拙がわかる位であると孃さんも一層勵んで爲さる樣になれば大した慰みになると云ふ譯で、殊に私は是等の遊戯を御婦人にお勸め致したいと思ふのであります、

それから船の中で退屈でありまして、船の醫者と心易くなつていろ〳〵船の衛生のことを聞いて見ましてございます、其話に、昔は船が木造であつたが今は追々鐵船を用ゆるやうになつた、飛脚船なども材料は鐵を用ゆるやうになつて來た、昔は木であるから腐ると水が洩ると云ふやうなことで、從つて船の中に「アカ」が溜まつて空氣は不潔になり往々にして病を醸すやうなこともあつた、それが鐵になつたお陰に、決して溜つた水が腐るとか空氣が不潔になる

とか云やうなともなく、此點は大に宜しくなつた、所が鐵だと暑い時は非常に暑くて冬は寒い、又鐵だと水が凝結する故、どうかして是は避けなければならないと云ふので、此度はコルクを潰したものを交ぜて船を塗るやうに致した、さうすると鐵が汗をかくことが少なくなつて、今では多くコルクを用ゆるやうになつた、近來は又木に一定の化學的の物質を染み込まして塗ると火が附かないと云ふ方法を發見して、亞米利加あたりでは木を用ふるのもある、さうすると主なるものは鐵で製造て寒熱に困る部分は木を用ふると云ふやうなことを話して居りました、それから船では、一人前幾らの面積、それから空氣の分量は幾らと云ふやうに制限してある、所が雨風になつて海が暴れると窓を閉鎖すと云ふことになり、自然に空氣が不潔になる、是は甚だ困るのであるが、貴賤方は或は御承知もございましよふが、船には進行の際自然に風の吹込む仕掛がありますが、其位の所では行かぬので、近來では通風機と云ふものを設けて……東京あたりでも有りますが、電氣で風を起す器械、何れも御覧になつたのでございませうが、之を以て空氣の流通を圖るやうに致した、是れは電氣の應用から來たので、其ほか電氣の側から利益を得て居ることが澤山ある、昔は燈し油或は石油、それが進んで今日では電氣燈を用ゆるやうになつた、是れが大に空氣をば不潔ならしむることを避くるので、火事が少なくなつたのも電氣應用の爲めであると云ふ事でありました、

私共の參りました時なども、印度洋あたりは非常な暑熱であつたが、船の窓の所に扇があつて、風を外から引くやうになつて居りましたから、大變に暑を凌ぐの助けにもなりました、又其油を用ゆることが少ないと云ふのは、種々の點に於て利益のあることでありますが、此處に一々は申しませぬ、其外今申した船に乘る人員を制限致した、昔は移住民は何程でも詰め込んで荷物と同じやうに持つて行きさへすれば宜しいと云ふことであつたが、啻に下等の船

客ばかりでなしに、それが延て上中等の船客にも害を及ぼしたことであつたが、其點に於ても衛生が餘程進歩したと云ふ話でございました、

夫から船の中に物を冷して置く室がある、肉にしろ野菜にしろ新鮮のものを腐敗しないやうに保存することが出來る、これも餘程の進歩であります、それのみならず今では冷却したる空氣をば、機關室などに送り通ずることも出來る、今少しすれば客室まで此冷却した空氣を通ずることが出來るであらうと云ふやうな話もございました」それから船客の數を限ること、船客百人以上の遠洋航海の船には醫者を乘せなければならぬ事船醫者の職業を定めたことなども、船の衛生上に非常な進歩をしたる所であります其他傳染病などのある所に行つた塲合には陸地と交通の制限があり荷物石炭抔を運ぶ人夫は船の上で食物を食べることを許さぬとか他から來た者の使用する便所を一定して置くとか致して、其結果船の中で病人の出來る數が非常に減じて參つた、是れも餘程の進歩でありまして、殊に軍でも致さうと云ふ船であると、一人病人があるとそれを捨てゝ置くと云ふ譯には行かぬので、其病人に無病の人が附いて居らなければならない、他の人までも使ふことを奪はれるのでありますから、一人の病人が非常な違ひで、一軒の家でも左樣でございますが、病人があれば仕事をする人がしないで、それで既に損耗である上に、醫者にも藥屋にも錢を拂はなければならない、さうして家内の健康な人も手が掛かる、故に病人ほど損耗のものはない、それでありますからして不生此衛生の爲めに注意して置くと、隨分金のかゝる無用の事のやうに見えますけれども、直接に利益は現はれないが病氣に罹からぬ爲めに得る利益は實に宏大なるものでありますから、衛生の爲めには隨分資本を入れても決して損な商法ではないと思はれる、船などではさう云ふ必要があるから、今のやうな狀態に立至つて居るのであらうと思ふ、是等は皆樣にお話しても面白くもないことゝ存じますが、何事によら

ず凡ての點に於て斯樣な工合に注意致して、衛生の狀態が進んで來て居ると云ふことの一斑をば御話したるに過ぎませぬのであります、

併ながら香港に參つた時には案外の事もございましたが、彼處には隨分ペストの病人がある、先刻御話した通り支那人には口から來る病氣は少いが、ペストは主に外傷から來る病氣で(呼吸器からも來るが)御承知の通り臺灣でも此病氣は多い、其飛沫が神戶大阪にも來る、所で香港あたりでも外の病氣は少ないがペストは非常に多い、そこでペストがありましても、成るたけは隱して置くと云ふやうなことである、それは一寸聞くと怪しからんことでございますが、ペストと云ふことを言ひ出しますと其所の品物は捌けが惡くなり買人が無くなる、其所へは人が立寄ぬと云ふことで非常な不利益でありますから、不親切とは思ふて居りませうが、經濟上成るたけ隱すと云ふやうなことが有ります、是には私も隨分酷いことだと思ひましたが、其位のことでありますからして、ペストなどは我國では早く根絕しをしなければならない、先年もペストの時分は茶が亞米利加に行かなくなつたと云ふて騷いだことがある、

それから私は獨逸に參りました、今度特別に驚いた譯でもありませぬが、元と下宿して居りました其家へ這入りましたが、室の數が十幾つかありまして、下宿して居ります人の數が十人餘もあります、それをば年を老つた婦人さんが一人、それから下女一人而も其婦人さんが七十三と云ふ日本ならば役に立たぬ所の老婆でそれが、下女を叱り飛して下宿人の世話をして居る、一寸此下女がどの位の仕事をするかと云ふことを御話しますが、朝は先づ下宿人の爲にコーヒーの支度をしてそれからパンを取つて來る、其次ぎに靴を磨いて個々の室の入口に置いて、下宿人が起きると直ぐにパンにバタとコーヒーを添へて個々の室に持つて來るそこで、其人達が食事後外に出ると室の掃除をする、皆の寢床は西洋流の寢床ですから隨分手がかゝるに洗面臺や便器をも掃除をし

て、最後に机腰掛抔を拭ふ晩になりますと復た床をば寐られるだけに直して置く、其外婆さんと自分の晝と晩の食物を調製する晩方は下宿人が部屋で晩食する事がある其買物にも行ねばならずビール葡萄酒を求むる事も稀でない中々大變なことでありますがそれをば一人でどうやらかうやら致します、只洗濯物があります時と、それからして、大掃除の時には餘所から補助に參る者がある、私の宅などでは僅か家族八人でありますが、それだけで召使が五人ばかりもあつて遣つて居る、之を比較して考へて見ると、どうか日本でも此の召使の人數を制限することが出來ないものであらうかと思ふ、又どうして獨逸あたりで斯う云ふことが出來るのであらうかと不思議に思ひまするけれども、氣を附けて見まするに、仕事をするのにちやんと規律が立つて居る、何をした後に何をすると云ふ規律が整然と立つて居る、其規律より外には別段に出來事と云ふものは先づ無いのであります、我國でございまするとお客樣が來ると

烟草盆を出す、茶が出る菓子が出る、歸る時には履物を直さねばならぬのみならず、御婦人のお客なれば、菓子を包んで出さなければならない、男の方なれば何時でも「まア一杯飲み給へ」と云ふやうな事もある、其内には又他のお客が一人殖へる、すると御肴をもう一ツと云ふやうなことで、不意に起る事柄が澤山ありまして、仕事が片附くと云ふことがない、それ故に獨逸あたりでは日課が定つて居つて、それだけをちやんと片附けて、片附けば自分の躰になる、所が日本では働いても働かないでも、用が始終絶えたことがない、此使ひ方に不規則であることが召使を多く要する一つの原因の主なるものであらうと思ふ、さればと云ふてこれをば更めることは眞に困難であります、此の下女の給金は十二マルク即ち日本の六圓であり外に下宿人の心附が廿マルク(拾圓)位ある之を吾邦の給金に比較すれば少し高いやうでありますが、給金は僅かづゝても日本では五人して食べるから勘定すると矢張高いものに付いて居る何れ

我國に於ても人間の價値が高くなりますから止むを得ずして是等の事が節減せられるであらう、今日でも御互に不規則の事は注意したならば幾分か雇人を省くことが出來るであらうと思ひます、殊に西洋では家事の整理は餘程順序を立てゝ致すので、特に之を稽古をさせる、大抵自宅で稽古をするか、然し工業の盛なる土地に於て夫婦揃つて工場へ出まするなどゝ云ふことになると、中々宅で炊焚をするやうな事は出來ない、自宅で家事の稽古の出來ない者がある、さう云ふ所になると特に家事教育といふことを學校で致します、宅で稽古をするか、さもなければ學校で稽古をさせると云ふことになつて居る、故に皆覺えて規則正しくやる、總てが行届いて居ります、

私は何時やらの事で御座いますが「衛生の大意は奇麗と秩序といふことである」と云ふことを御話致しましたが、其家事教育とはどんな事であるかと云ふことを今度能く聽いて來ました。

先づ一番に寢床の整理です、寢床は日本とは違ひますが、其寢具の整理を致し、それから暖爐の取扱方、即ち薪を入れる處を何う云ふ風に掃除をするか焚付はどういふ工合に入れる、炭なり薪なりの積み方、それから火焰が燃盡きた時に永く炭火の保つやうにするには——薪の儉約になるのには何ういふ工合にするが良いといふこと、灰の取り方抔を教へる、それから掃除の事、毎日は唯少掃除をするだけで、ブラシに柄の附いた樣な手箒で机や腰掛や床の上を拭き取る、一週に一度中掃除で此時は椅子や敷物を室外へ出して掃除をなし窓をも拭ふさういふ事から覺え始める、それから長柄の附いた帚を使ふにはどういふ風にといふことを覺え、四角の座敷を圓く掃くと云ふやうなことは決してない、乾いた布巾の使ひ方、濡れた布巾の用ゐ方などを教へる、其次には靴を拭くことです、靴を磨くには其材料は何々を用ゐる、靴磨の方法順序、其道具をどういふ風に仕舞つて置いたが宜しいと云ふこと、ランプの掃除、窓の拭き方、それから小刀や肉匙、斯ういふ物の磨き

方、鍋類の磨き方、及其洗ひ方、それから家具の掃除の仕方、大掃除のこと、大掃除といふのは日本でいふと煤掃のやうなもの、其時の順序、是等は皆清潔法に關することです、其他に洗濯がある、何は何ういふ工合に洗濯する、曹達はどの位用ゐて、どの位煮るといふこと、其次は絞り方、糊の附け方、火熨斗のかけ方、尚ほ洗ふ時も色の着いた物、色の着かない物、袖の有る物の疊み方、仕舞つて置き方、なか〳〵精しく敎へる、第三に至つて料理の事でありますが、料理で第二に敎へるのは必ず一定の場所に一定の物を置けといふことである、如何にも一人で事をする時は宜しいが、大勢でするとーつの物を探す爲に何處に置いた彼處にあつたと云ふやうなことで空しく時を費す恐がある、故に道具の置場所を一定して置く、其用が濟めば必ず舊の所に置けといふのが第一の規則であります、料理をするにも仕事の順序を定めなければならない、金の出納、幾らの人に幾らの貯をするから、一人前が幾らに積つて宜しいとか云ふことを敎へる、それから幾ら金を貰つて幾ら使ひ拂つたといふ記帳の事です、之を敎へる、又儉約といふ事、儉約とは物を安く買ふばかりでない、無駄のない樣にする事である、それから芥溜に這入るべき物、氣を注けないと廢物でない物を捨てなければならないやうになる、序に御話するが東京人などは芥の掃除に困つて居るやうでありますが、あれも遣り方に依つてなか〳〵利益になるです、或る所では大きな芥溜があつて其下に幅の廣い長い巾が廻轉して居る芥がざら〳〵落ちて來ると巾が廻轉すると、其兩側に大勢並んで居て、紙屑を拾ふ者、硝子の片を拾ふ者、鑵詰の空殼を拾ふ者と云ふ樣、一々撰分る鐵屑は大きな磁石が吸ひとる跡に殘つた何にもならない物は巾の端から釜の中へ落ちて焚て灰にするから肥料になる、それてありますから芥が一廉のえらい收入になる、なか〳〵氣を注けてやりますると廢物は思つた程は無いものです、閑話休題として、買込の事に就いても一週間に買つて置

くべき物と毎日買ふべき物とあつて、其區別及日本て云へば椽の下に入れて置くべき物、水を打つて置くべき物などと、云ふことを順々に數へる、尙ほ人間の營養になる養分とはどう云ふものであるか、それが消化すると云ふのはどう云ふことか、消化機の疲勞るのはどう云ふ譯であつて、勞れないのはどう云ふ風にすれば勞れないか、呼吸とか體溫とか所謂生理の一般を敎へます、其次には食物の成分、何には養分が何程あるか、米にはどれ位ゐの滋養分が含んて居つて、肉にはどの位ゐの養分か這入つて居ると云ふやうなこと、即ち食物の大體の成分を話して聞かせ、それからどの位の消化時間を要するなど丶云ふこと迄敎へ、次にテーブルや膳の取扱方等を敎へ、それから始めて食料や飮料の料理法を敎へるので最後に尺度量衡の事を食品の代價のことを敎へる代價を知つて居ると云ふことは經濟にとつて必要のことであります、私の妻などは米が一圓に何斗致すか、炭が何程するかなどと云ふことを問はれてもお

答へをすることが出來ないので、或る舶來の奧さんから炭は何處に行つて買ふと安いと云ふやうなことを聞いて、大きに面目を失ふたことがあるが、多數の御夫人の中には思ふに同じやうなお仲間も在つしやらうと思ひます、斯やうな具合に家事を充分に仕込むから其の整理が行屆いて居る、獨逸の婦人は他國に參りまして隨分好かれる、亞米利加抔に參つても獨逸婦人は早く嫁くと云ふことでありますが、是は決して標致が好いからではありませぬ、今の家事をも能く心得て居り、儉約と云ふことをなか〳〵能く知つて居る、それからして洒落方も左程でない威張方も左程でない、是は亞米利加生れの婦人或は英佛等の婦人と比較して申すお話であります、それで普通に大變珍重されて居ると云ふとであるのです。

私が獨逸で羨しく思つたのは、家事の能く行屆いて居ることとて誠に羨しく思つた、是れが間接には矢張全體の家族の衛生になるのであります、誠に羨やましいことゝ思ひました、其外是れも衛生に直接

の關係はないことてありますが、暮し方の質素なることと、それから總て種々の樂みが高尚なることと是等も淡しく思ひました、暮向きが一躰に質素て交際も質素てある、今段々華美になつて來たと云ふことてありますが、餘程質素な所がある、今晩茶を飮みに、お出てなさい」など、言つて招待しますから、どんな御馳走ても出るかと思へば、冷肉が二品か三品、それて麪包にバタ茶位なものてす、先づ遠方から來た人に馳走をするのだから、餘程御馳走しさうなものだが、私共が料理屋て食べるよりも粗末なものてす、御飯の後にビールを飮ます位が山々てあります、是も私は淡しいと感じました、晝後の茶を飮みに來いと云ふやうな時には、それは何にもない、事實にサンドヰツチと茶のみてす、其代りに交際は誠に溫かて談話の閑雅なる事音樂の優美なる事實に羨望の至りてあります、斯ういふ譯て交際が誠に容易い、日本の宴會等てあるとなか〳〵金が懸つて私共は兎角困るやうな譯てあります、幸ひと妻が宴會に出る等と云ふことも少なし、男子は一枚の着物ても濟みますが、婦人は何うも何時も同し着物て出掛けると云ふことは出來ぬと云つたやうな譯てさう云ふことて攻められますと、亭主が難儀をする、此等は餘程氣を注けなければならぬことてあつて、交際も宜しいが餘程質素のことに致したい歐羅巴邊りの上流の華美の風に染みて仕舞ひますると、容易に挽回することは出來ぬと思ふ、さうなると今度は女房を持つことの出來ない男が出來る、又亭主を持つことの出來ない女が澤山に出來る、歐洲ても上等の人はさうてもありますまい、又下等の人はさうてもないが、中等の社會の人には大分さう云ふのがある、是等の人が幸福てあるかと云へば決して幸福てないやうてす、人か死する數や年齡などを調べて見ても、夫婦になつて居る者の方が、即ち配偶のある人の方が長命をします、規則正しき生活をするからてありませう、故に配偶者の無いのは先づ私は幸福てないと思ふ、單に其人が不幸なのみてない國

家の不利益です教育は受けたが社會から相當の待遇を受る事が出來ぬと壯士になるか社會黨抔になる、船の醫者なども其一人でありまして、東洋まで來ても面白い事がないから國へ歸て無政府黨に入る抔と申しました、社會黨の多數は教育を受けた人ではあるが、併し人としての充分の交際が出來ないから何か事あれかしと思て頻りに破裂をしたがるです「乃公などもさう思つて居るが大分私の國にはさう云ふ考への人がある」と言つて話された、今言ふ通りて、どうぞ互ひに交際が張つて來ると自然さう云ふことになつて女房が持てない、又夫婦になつても子供が澤山出來ると困るから、佛蘭西わたりでは人の生れる數よりも死ぬ數の方が多い、獨逸などでも追々風俗が華美になつて來て結婚者幷に小供の生れる數が少なくなつたと云ふことであり、夫と同時に社會黨などが繁殖る、此等はお話しても詰らぬことてすが、元は質素でないと云ふことから起ると云ふお話をするのであります、お相互の交際と云ふものは必要の事で、吾國の御婦人などの交際は今少し活潑になつても宜からうと思ふのでありますが、併し是れに伴ふ所の費用が少くないと、終には歐羅巴邊の狀態に陷りはしないか、是れは大に考ふべき點であると思ひまして御夫人方の御一考を煩した理由であります

それから私の羨ましく思ひましたのは樂しみが高尙であると云ふこと、鼻や口や皮膚などを悅ばしむることは是は下等の樂みである、耳と目を悅ばせるのが是れは上等の樂みです、目て見耳て聞いて心を樂ませる、芝居なども遣り方に依つては高尙のものてありますけれども、話も何もしない所の繪、即ち美術書などを見てそれを理解すると云ふことは更に進んだ所の樂みてあります、又見ることてなく聞くばかりで樂みを致す、即ち音樂と云ふもの、是れは最も高等の美術である、其の美術の音樂と云ふものを非常に樂しむ、私共は無器用て「又音樂の御相伴か」と言つて溜息をつくと云ふ譯であるが、是れ

は誠にお羞かしいことゝて、御婦人方は其點に於ては實に男子に勝る所の高等の樂みを持つてござる御方で、私は誠に羨ましく思ふです、吾國の男子も往々は婦人と共に樂しまれるやうに致したい。

最後にもう一つ申しますが、獨逸の王樣が女は三つのKが好いと云ふことを言はれた、それは何であるかと言へば、キュッ(Kuche臺所)キンドル(Kinder小供)キルヘ(Kirche寺院即宗教)です、是だけを十分に致して呉れゝば宜しいと云ふことを言はれた、

私もどちらかと言へば是れが贊成で、ペルッさんが何處かで演説されたと云ふて此婦人衞生會の雜誌に出て居りまする論は私なども贊成なのであります是れは既に御覽になつたことゝ思ひますから申しませぬ。

今日はくだらぬことをながく／＼と申しまして誠に恐縮でありましたが、私のお話は是れてお仕舞に致します。

* * * * * *

●箴　言

身體は日々少しつゝ勞働すべし久しく安坐すべからず毎日飯後に必庭園の内數百足しづかに歩行すべし雨中には室屋の内を幾度も徐行すへし如此日々朝晩運動すれは飯食血の滯なくて病なし

高崎支會講演

食餌衞生に就て（前號續）

莊司森之助

牛は芻の毒に感ぜないのに其乳を飲んで毒せらるゝ事などあります、又夏期になりますると、蠅を避けんとて、煙草汁にて牛を洗ふ爲めに、其煙草の中の主成分たるニコチンを混ずることもあります、又牛に藥用として汞、鉛、砒石、アンチモン等を與へしときは、乳に混りて人を毒することもあります、又乳汁中には搾取するときに、牛身を不淨に致してありまする、牛糞などを混ずることもあります、又乳汁搾りし後、取扱惡しき爲め、種々の細菌を混ずることもあります、病乳とは病獸の乳を搾りたるに

て、人に傳染すること多くあります、殊に結核牛よりは結核菌を混合すると申すことです、器物よりは鉛を混ずることもあります、消化器に病氣あるか、又は飼養惡しきか、若くは孳尾期には、水分多く其色は蒼色となります、乳腺炎あれば鹹き乳を出す、苦乳、窒乳、青乳、紅乳、黄乳などは一種の細菌より出來るそふです、

このよふに牛乳にも種々の混合物がありまして、時々人を病ましむることとありますれば、御飲用の節は必ず一度煮沸せなければなりませぬ、煮沸しますると、種々の細菌は悉く死亡致します、けれども單に温めた位なれば、却て細菌數を多く繁殖させる樣になりまして、却て生乳より惡しきことがありますから、この邊は深く御注意なされなければなりません、其他牛乳には、種々の混ぜものを致して販賣する奸商があります、薄すき乳の色を隱さんとて、米粉、米泔汁、糊、澱粉、糖、白堊、石膏、青粉、飴、煮糖汁、大麥、護謨などを加へ、酸乳には炭酸曹達、炭酸石灰を入れて中和致し、又酸變を防かんとて水揚酸、硼酸、安息香酸、亞硫酸などを加へて賣るものがあります、此等は警察署にて充分に取締る樣に規則が出來てありますれど、皆樣方も充分に御注意なさるのは必要と信じます、

豆乳

近頃豆乳(ペェンソップ)と稱して、市中に販賣する樣て、この高崎市に於ても之を販賣致します、其色黄青白色を帶びまして、其稠度牛乳に類似して居りまするから、一見牛乳なるかを疑しむる如く出來て居ります、其價は廉にして一合貳錢に賣るそうてす此成分は只今水谷藥劑官が分析中てありますから高崎の分は能く解りませんが、土佐國高知市衞生試驗所にて分析したるものを見ますると、百分比例の成分は左の樣てす

	固形分	水分	蛋白質	脂肪	含水炭素物	灰分
豆乳	七、八二	九二、一八	三、六一六	一、五五八	二、〇六六	〇、四九

この豆乳は豆を水に浸し、膨脹しましたものを、石

臼にて挽き水に溶し、之を木綿袋にて濾過し、豆の粕を去り、其濾液を煮沸し、上面に浮びましたる泡沫を去りたるものなれば、即ち豆腐の成分に等しくあります、吸收に至りまして、植物蛋白なれは惡しく、恰も豆腐を食すると同樣の姿であります、この一合の養分を算出すれば、

	蛋白質	脂肪	含水炭素	溫量
豆乳一合	五、七九六	二、一九〇	二、九二三	五四

高知衛生試驗所の調によりますると、この豆乳の養分は、牛乳の七分の一なりと申しますれども、私の調によると溫量は、約五分の二を有する樣です、故に價廉なればとて養價より申せば、少しも安きとはなきのみならず、異臭不快味にして感情を害するだけ損の樣に思ひます、

然るに奸商等は豆乳を牛乳に混じて販賣するものがあるそふです、色も稠度も稍々似て居まするから、之を別けまするのが誠に困難だと云ふことです、仙臺の須田氏はこの鑑別法に就て演說されたそふですが、牛乳七十分と豆乳三十分迄の混合は、化學分析上にては鑑別することが出來ない、只顯微鏡にて成分を見るより外策なしと云て居られますから、流行の時節柄御注意迄申上置きます

鷄卵

朝に牛乳の代りに鷄卵を用ゆる人も深山ある樣です私なども其一人で每朝鷄卵を飮みます、殊に卵は至る處澤山にござりまするので、富者は滋養の爲め、旅者は一時の飢を凌ぐ爲めに用ひらるゝのみならす其應用甚だ廣くありまして、日本の料理西洋料理又は菓子などにも澤山用ひ、又調味として料理法に御用ひなさる樣でありまするから特に申上げて置きます、

鷄卵にも大小種々ありまして、最も大なるは二十匁最も少なるは七匁位にて大層な差がありますれど一々申上げるも複雜ですから、多くあるのに就て申上げます、

鷄卵は御承知の通り、殼、卵黃、卵白の三より成て

居ります、殼は主に炭酸石灰で尚炭酸苦土燐酸石灰及有機物などを含み、其内部は卵膜にて、卵白と卵黄とを包んでありますゝ鷄卵の全量を計算致しますと十五匁あります、之を別れば、

殼一匁七　卵白八匁七　卵黄四匁六

鷄卵の成分を百分比例にて申上ければ、

	水分	固形分	蛋白質	脂肪	灰分
全卵	七三、九	二六、一	一四、一	一〇、九	｜
卵黄	五四、九	二六、一	一五、四	二八、八	一、七
卵白	八九、九	一四、一	一三、三	｜	〇、七

故に卵中養分を多く含みまするのは、卵黄であります、卵の吸收は生卵及半熟卵は宜しくありますけれど、煮或は炙りて硬くせしものは不良だと申します、卵白は卵黄より不良でありますけれども、胃腑健全であれば共に吸收宜しいそうです、然し病人には卵黄を與ふるのが宜しきように思ひます、卵を食しまして損失する量は百分比例にて申せば、

窒素二、九　脂肪五、〇　乾物五、二　灰分一八、四

この卵の吸收せられて養になりまする量を調べますると、

十五匁の卵一個　八二、二温量

故に牛乳七勺弱と匹敵する様に思ひますが、森氏は一卵の養は、肉十一匁若くは牛乳八勺弱の量に似たりと謂はれまするから、心すべきことゝ思ひます

卵を貯ふるには冷所がよろしけれど、これを石灰水に浸し置くも宜しくあります、腐敗したる卵は不透明にして、良卵は半透明であります、良卵は二十乃至十倍の食鹽水に沈むも、腐卵はこれに浮びますから、御買求の際御注意ありて可然事と思ひます、

これて先づ朝食の事は概略申上げましたれば、昼食に移る積りであります、けれども、大分時間も費やしまして、皆様の御退屈にも御ざりましょふし、時間も已に過ぎ、又林君の面白く且つ有益なる飲料水の御話がありまするそうですから、次回に申上げます、





寄書

赤痢病毒の性質に就て

青森市傳染病院醫長兼務　竹中成憲述

赤痢の病毒は赤痢患者の糞便中にのみ存するものにして其蔓延する所以のものは糞便の始末あしきに因る決して天然痘又は痲疹の如く病毒空氣中に飛散し空氣を介して來るものにあらず故に赤痢患者と同室に起居するも飲食物に注意し總て煮たるものをのみ用ゆれは決して感染の恐あるべからず一度煮るときは假に其飲食物中に病毒ありとするも無害になるものなればなり

虎列剌、腸窒扶斯も同樣にして此三病は口より外、躰内に入るとなし飲食物以外に病毒を持ち來る事なしロを愼まば即ち足る、故に『恐るゝな、赤痢、虎列剌に腸チフス、口より外に、入る口ぞなき』、青森市傳染病院に一雇人あり頗る赤痢を恐れ病毒の口より入らむ事を慮り面部に繃帶を施し自から安ぜしが此男赤痢に罹れり彼は面部に城壁を造りたるも飲食物に意を注がざりしなり彼は悪き飲食物を口にせるなり

赤痢患者の上りたる圊も其糞便を他に運搬する事あるべきを以て必竟糞便の消毒を要するなり何となれば赤痢患者の入たる圊に健者直に入るも下より來る風又は臭氣にて病毒を健者に傳ふるものにあらざればなり世人動もすれは漫りに傳染病を恐るゝの傾きあり乞ふ明治三十年内務省令第十三號を見よ赤痢毒を含む糞便すら之に一定の生石灰を加ふれば一週間の後此糞便を肥料として使用する事を許しあるにあらずや

何人に限らず患者に接したるものは先づ己れの手を消毒藥を以て洗ひ當時纏ひたる白衣及び足袋を脱す

れば其人は無毒の人となるなり故に法律にも醫師の傳染病患者を診して後直に他家に到ることを禁じあらず恰も病毒は『火』の如し『火』は恐るべきものなれども之を取締らば三才の兒童も之を自由にするを得、取締らざれば『失火』となりて害毒を流す害毒を流すがゆえに一切『火』を禁ずとせば吾人は一日も完全なる飲食を得る事能はず火を消すものは水にして毒を消すものは藥即ち消毒藥なり

然るに世人の病理に通ぜざる素より其所なりといへども市醫の傳染病院に往來するを見て病毒を院外に散亂するものなるかの如く吹聽するものあり其余りに學理に疎き默止するに忍びざるなり

學校に於ても亦然り何百といふ多數の生徒中に一名の赤痢發生したりとて直に全校の休業を爲すが如きは早計に失するものなり生徒一同が同一家庭より昇校する者なれば素より全校を擧げて交通の遮斷を爲すべきも生徒各自は家庭を異にし各自別々の飲食を爲しつゝあり如何にして赤痢の一生徒己れの病毒を他に及ぼし得べき乎

願くは各地とも赤痢の爲め敎育を廢する事なからむ事を、小學生徒休校して家庭にあるや彼等は水を飲み果實を喰ひ在校時に比して遙に不養生を爲しつゝあり彼等をして校に在らしむは獨り彼等の爲のみにあらず實に社會の爲なり、只生徒家庭の附近に赤痢發生しあるものゝ如きは便宜校長に於て其者に限り昇校を停止するが如きは策の得たるものにして注意深き校長といふべし

事少しく極端の言なれども最も良き法は生徒各自の爲めに便器(おまる)を備へしめ便器以外に脱糞を許さゞるにあり左すれは赤痢の發見も易く便所の消毒も入らず頗る便利なり

要するに赤痢の『害毒』は恐るべきも『病毒』其者は恐るゝに足らず恰も『火事』の害毒は恐るべきも『火』其者は恐るゝに足らざるのみならず頗る吾人に必用にして各戶每朝之を作りつゝあるが如し

此數言願くは杏林以外の人をして漫りに赤痢を恐る

ゝの念を去らしむるを得む乎（明治三十五年十月一日未明稿）



衞生雜話

醫學士　久保猪之吉

●齒牙の美●

前回のお話に髮の毛の事を申しましたが。頭髮はくろい〳〵墨のやうなのが日本人の貴ぶ所です白髮染のはやるのもその爲でしやう。之と丸で反對なのは齒です。齒は白く雪のやうなのが美しい。人間の身躰の中で白き所といッたら齒牙でしやう。その齒が白うて細かで、よく揃ッて居れば誠に奇麗である。一度笑顏を作れば。紅の唇からその白いのが顯はれる。唯に奇麗なばかりではありません。さやうな齒は身躰の健康の上に大いなる關係をもッてをるものですから、齒の好い人は身躰も壯健である。倘年齒の若い中から齒のわるい人はオイシイ物も味ふ事が出來ず、虫齒の痛がはげしい等誠に氣の毒なものです。齒の養生は萬人の心得べき事とおもひます。」

●齒は何の爲め●

齒がどれ丈の作用をするかといふ事を考へれば齒を粗末に出來ない。又一度壞した齒はたとひ入齒をしても齒を塡めても元のやうにいかぬといふ事をしッたならば養生しやうといふ氣になる。

第一、齒牙は物を咀嚼するといふ事が主です。前齒と犬齒とは食物をカミ切るといふ作用があり奥齒を臼のやうに出來て居ッて上下の間で食物をカミクダクのです。即ち食物の消化の第一番目で。大ザッパに物を碎いて唾とよく混ぜるのです。之が消化に必用なので若齒牙が無ければ食物を丸のみにすると同じです。忽ち胃や腸をいためます。ですから齒牙の備ッて居る人は食物を丁寧に嚙むべきものです。

第二。音聲を出すのに大關係があります。齒の一部

分が抜けてとれると聲がわろくなる。又歯のならびがわろくとも聲がわるい。凡て抜ける時は勿論わろい事は年寄の詞をきいてもわかります。

第三。外觀上も關係します。歯の白く揃ッて居る人は笑ッても欠伸をしても見苦しくない又歯が抜けて老人になれば口の邊の形が丸て變ッて非常に見苦しくなる。之を古の本では「口すげみたる」とかいてある。增鏡といふ書物の始めの老人の所でありました歯がない爲に口がッぼんでムク／＼してをる見にくい形です。

第四、食物の味を知る上に於て缺くべからざるものです。我々の舌で味をしるのは食物が細かになッて唾とよく混ッてとけて舌にふれるからです。それが固いものであッてみれば唾だけでは溶けない。世の中で咬みしめて味が出ると申やうな品は皆味はへる事が出來ない。

それ等の作用ある内で物をかみ碎くといふ事が一番大切です。物の消化に關係するから、ツマリ健康に大關係をもッて居ます。」

●歯の名前●

歯の名前を知ッて居るといふ事が必用です。今迄日本で用ゐて居ッたのは前歯奥歯位の區別位ですが、それではあまり簡單す。少しく述べましやう。歯の數は御存知の通り上下凡てを併せて三十二枚あります。その中で左右とも上下の最も奥のものは年をとッてから生へて來る。人によッては三十を越えてから出る事もある。之を「親しらず歯」といッてゐます。今の詞では智歯といひます。或は親がなくなッてからはへる。又は智慧が出てからはへるといふ意味でしやう。前歯と申すのは上下共に四本ヅヽにて門歯といひます。門歯の次に一本ヅヽ即ち上下併せて四本を犬歯といひます。俗に「糸切り歯」と申して婦人方がよく糸等を嚙み切る歯です。是が動物殊に肉類を食べる犬類ではよく發達し牙と稱へて居ます。其次にある凡てを奥歯又は臼歯と申して前の方

にある二ッ宛を小臼齒、後方のを智齒ともに大臼齒と區別して居ます。齲齒の出來るのは多く臼齒て、齒列の亂れるのは前齒です。是が尋常の人の齒列てす。今數を表にすれば次のやうです

	上	下			上	下		小計
左大臼齒	3	3	+	右大臼齒	3	3	}	=12
小臼齒	2	2	+	小臼齒	2	2	}	=8
犬齒	1	1	+	犬齒	1	1	}	=4
門齒	2	2	+	門齒	2	2	}	=8
左齒	上	下	+	右齒	上	下	}	=32 左右合計

●惡き齒牙●

齒は白く細く揃ッて無疵であるのを最上といたしますが、わるい齒牙といふのはドンナのかと申せばいふ迄も無い。齒牙に疵のあるもの、即ち齲齒のあるのが第一、齒の拔て失なッたのが第二、齒列わるくしてデコボコになッて居るのが第三、齒の形が大小不同のものの第四、齒の色が黑くして茄子齒と申すものが第五、以上の内一ッか二ッか又は凡てを有ッて居れば消化のわるくなるのみならず、齒の痛にたへかねて氣の狂ふ人もある。又黑い齒を以てをれば甚だ見苦い又汚れて居る齒はイヤな臭を持ッて居りますから人にイヤがられます。

●齒列の惡いのは●

一番多いのが出齒です出齒の人は口をツぼめる事がむづかしいから口を開いてをる癖がある。しひて口を結ばむとすると口が尖ッてその形が面白くない。私の友達が出齒の人を冷評していふのには君の齒では羊羹が三ッに切れるだらうと。成程通常の人では上下の齒が合ふ筈だが出齒の人では合ふ事が出來ないて間隔がある、それてソーいふ惡口が出たのてしやう。カウいふ出齒の出來るのは色々ありましやうが、咽喉の病氣て鼻の息が自由に出來ない人(腺増殖症又は「アデノイド」といッて居る病氣てす第百五十三號の鼻「の話を」ご覽なさい。)か又は幼さい時分から鼻が塞ッて鼻呼吸の自由にできない人によく

起ります。ソーダすから出歯を拒ぐには幼さい時分から鼻や咽喉の病氣を直す事が第一必用です。

又劇い出歯で無くとも歯列の非常に惡い人がある、即ちドレが前歯か犬歯か入り亂れて分らず一列であるべき歯列が二列にも三列にもなッて居る事がある。コーいふ人は口の恰好がわるい計りで無く音聲を出すことが甘くゆかず。又歯と歯との間には食物の殘りが溜ッて腐ッて困る又歯がシッカリして居ない。ドーしてコーいふ粗末な歯が出來るかといふと多くは歯の拔け變り目の時代に歯の發生がわるく、拔けべき歯を痛さに拔かず置きし罪に依ッて所謂『八重歯』と稱する歯が側に出て來て列が亂れるのです。歯を拔くといふ事をイタイものですから誰でも怠る事が多いのです。又母親が子供を愛がる餘りに歯を拔くべき時期を失ふ。それですから歯の拔け變りは母たる人が注意せねば、ならぬ所です。』

●歯の拔け變り●

生れて直ぐに歯は無い、又乳を呑む間は三十二枚揃ッて居らぬ、又乳を呑む間の歯は成人になる迄殘ッて居ない。即ち歯が拔けかはる。前の歯を乳歯と呼び、後に拔け變ッてより永久年のとる迄殘ッてあるものを成歯と呼ぶのです。即ち成歯の發生時は尚小兒の年若い時ですから母たる人、姉たる人は十分注意して歯の拔け變りを誤らぬやうにし。難かしい時は歯の専門家に見せるやうにするがよろしい。今茲に成歯の生へる順序と年齢を記しましやう。世の母たる人々は一應心得ておくべきことゝ思ひますから。』

●乳歯のはへる年齢●

成歯の出來る順序を記す前に一寸乳歯の出來る年齢を申しましやう。乳歯と申すのは上下各拾枚あるのです。門歯が四、犬歯が二、小臼歯四、其順序と年齢は次のやうです。

第一、第一門歯　六―八ヶ月

第二、第二門歯　七―九ヶ月

第三、第一小臼歯　十二―十五ヶ月

第四、犬齒　六—廿ヶ月

第五、第二小臼齒　廿—廿四ヶ月

此表をよくご覽なさい一番早いのは前齒で、生れて半歳すればはへて來ます。上下を並べると上下の前齒が中央二本一番早く出來るのです。それから上顎となる。一番遲いのは第二の小臼齒で此は二年かゝります。是等の齒は皆一度は落ちて拔けかへる。」

●成齒の出來る順序●

前に申した乳齒は皆拔けかへるものですが一度に落ちるもので無い早くはへたのは早く落ちる又乳齒のおちない間にはや、一方では成齒の生へて來る所がある。それは第一大臼齒です。即ち順序は、

第一、第一大臼齒生ず　七歲

第二、第一門齒拔け變り　八歲

第三、第二門齒拔け變り　九歲

第四、第一小臼齒拔け變り十歲

第五、犬齒拔け變り　十一—十三歲

第六、第二小臼齒拔け變り十一—十五歲

第七、第二大臼齒生ず　十三—十六歲

第八、智齒　十八—三十歲

それですから七歲位の小學時代から中學校へ這入らうといふ時代迄の間が最も大切な時です。此間に齒列が定り顏の貌口付が極ります。ソレですから時々見供の口の中を攪しその動くか否かを見て拔くべきものは早く拔き去るやうにせなければ、大人になッてから悔いても及びません」

●●●御斷り●●●　前月雜誌に於て御約束致せし諸氏より豫て續々御遣しの御質疑は次の如く悉皆答解致し候爲め餘白乏しく相成候に付本月は應急處置及看護法の欄を除き申候



質疑欄

●●●●質問注意　質問中診察せざれば應答し難きものは答解の限りにあ

らず候答解に遅速ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりよく認むる事●質問に姓名を出すことを好まざる方は匿名にも差支なし●本號の雑誌に登載する分は凡前月十五日迄に申込まれしものとす

問　質問者　東京　南部家の士一人

前略す扨過日逝去遊されし南部子爵夫人には心臟神經痛にて御落命遊され候よし心臟神經痛とは如何なるものに候や恐入候へども誌上にて御答へ被下度願上候

答解者　本會幹事員　醫學士　米山彥郎

答　御質問の病氣は心臟神經痛一名煩悶胸窄又は心臟狹心症と申し病名の示す如く。時々發作的に心臟部左乳房と胸骨との間の邊)に烈しき痛みを起こす病氣に有之候其痛みは多くは脊部より左の腕に向ひて放射する性質有之、其時間は通常一分乃至三十分にして其際には胸部を強く壓し縮められ呼吸も止まる如き思致し非常の煩悶にて瀕死の感あるを常と致し候。此痛みは偶然睡眠時などに起こる事も有之候得共又運動の後談話の後食後怒りし後又非常に喜こばしき事等の有りし後などに起こる事も有之候。痛みの際には患者は手にて心臟部を壓し候も甚だしき時は卒倒するに至る事有之候。顔色は蒼白となり四肢寒冷にして一時周圍の人狼狽する事往々有之候。此の如き發作は數年間一回位の事又頻々起こる事も有之病の輕重により一樣ならず。不幸にして發作中に落命いたす事も有之候。

此病氣は心臟を養ふ血管又は瓣膜に故障ありて起こるもの多く有之候へ共又單に左る故障なくして神經性のものも有之候。其他煙草アルコール等の中毒又は胃病子宮病等より反射的に來るものも有之との事に候。

豫後も源因により種々に有之概して神經性のものなれば治癒に見込も有之候へ共心臟に故障等ありて起こりしものなれば自然不良の經過を取るを通例と致たし候。

問　質問者　秋田の一會員

妾は二十歳前後より身躰年を逐ふて肥滿となり今は三十歳なるに近來別けて痛く太りたれば往々

人の嘲りを受くる迄に至りぬされど其容姿の醜きはさてもありなん唯恐るゝは病の起らんことにこそ侍れよりて養生の仕度を伺ひ度なんかしこ

答解者　本會幹事員

答　寒地に棲む獸類や。水上に生活する動物を御覽なさい。概して皮下の脂肪組織に富むでおるでしやう。之れは申すまでもなく自然より與へられた衣服で外部の寒冷に對して躰溫を奪はれぬ保護です。人躰も之と一樣な道理で一定の程度迄は躰溫を不變に保つために皮下の脂肪は欠くべからざるものです。又一ツには外部からの刺戟に應じ身躰を保護する爲め。其外美觀的の觀察にては顔、首肩腕などの丸々にして角立ちおらざるは殊更御婦人方にとりては主要の事と思ひます。近頃美術社會にては裸躰美人は大建物にて曲線の配合宜しきに叶ひ云々など色々と批評もあれども其源と申せば主として皮下脂肪の如何による事で斯く種々の點より生理上必要のものに相違ない。併し何事にも程合のある事にて如何程必要の脂肪なればとて過度に多くなり夫れが爲めに血の循環作用や呼吸機能に障害が起こり躰の釣合を失ふ樣になりては最早病氣と申さねばなりませぬ。實に醫學上かゝる狀態を脂肪過大症又は肥滿症と稱へ一種の病氣と致しております。此病氣になやむものは我邦には割合少ないですが歐州諸國では中々多いとの事で恐らく食物の點に關係するかと思はれます。元々此脂肪は前申上げし如く躰溫の保護者なれども一方には養分の貯金とも申すべきもので日々とる食物の内生活現象の爲めに用ひ盡されし養分を償ふ餘分の養分は此脂肪となりて後日必要の場合に用ゐらるゝ樣に皮膚の下又は臓器の周圍に貯はへらるゝのです。人間が斷食しても少々の水だけとりさへすれば少なくも四五日間は差支なく生活し得らるゝのは先づ此脂肪が生活の爲めに消費せられ躰の必要なる臓器の蛋白質か分解せざるによるのです。從ひて脂肪の增すのは一般には身躰營養のよき胃腸の吸收の強き人に多き事なれば肥へたる人は瘦せた

る人に比し一般に強壮と申して先づ差支はありませぬ。さればこそ誰人も肥ゆるを望み肥へたるを羨む次第です。併しこゝで少し注意して数かねばならぬ事は肥えたる度は強ち強壮の度と一致せぬと申事です。只に肥えて丸々したる人のみが強しと思ふは大なる僻目にて筋肉骨格たくましきが上に脂肪も多ければこそ眞の肥えたるにて強力克く鼎を扛げ鬼を挫く勇者とも申し得べけれどさはいへ骨は細く筋肉は痩せ徒らに脂肪のみ多くては外見上こそ太りたれ其實は所謂から太りにて強しなどゝは申せず力は筋肉にある事なれば反て弱きものです。

左すればどれ丈の脂肪がたまれば病氣かと申せば。夫れは人々により一様には申されねど兎に角夫れが爲めに身体に故障起こりたる時にて体の重き爲め歩行など不自由となり、我身て我身の進退に自由を欠き。呼吸は困難んとなり心悸亢進を起こし其他昏眠精神作用遅鈍等數へ來れば色々の症狀が起こるです。かかる症狀を起こす様になりては外貌の不恰好となる事は申す迄もなし。顔首は太く短く。肩乳は丸く。頤は二重となり。腹は前に突き出だし下腹には横の溝生じ。四肢は筒狀となり。全体の形は札幌ビールの廣告かソマトーゼの廣告の様な人其儘になります。

そこで治療の點ですが之れを申上ぐる前に源因の事を述べておきましよう。

(1)多量の食物をとる事　何人にても一定の程度までは多量の食事により脂肪が増しますが脂肪過大となるには。

(2)其人の遺傳は關係があります。

(3)生活の仕方　餘り体を動さぬ人にてしかも大量の食物をとる時夫故坐業をなし精神を使ふ仕事に從事する人に多い。

(4)酒精分を取る事　特にビールを多く飲むものは之にかゝりやすくなります。

(5)種々の貧血症　が此病氣にかゝる素因を與へる事があります。

(6)先天性に來るものもあります。
(7)腺病質の小兒に來る事もあります。
(8)通常は二十才より三十才以上の人に多い。
(9)婦人は月經閉止の後之にかゝる傾きがあります。

治法若しも遺傳のある小供なれば其生母の乳を與へず。乳母によるか又は人工養育が必要です。育ちて後には可成身體の運動をさせる樣にするのです。万一此病氣にかゝりし以上は種々の人の考案にかゝはる食事制限的の療法がありますが之れは專門に涉る恐れがありますから申上ませぬが。要するに其人の身體を養ふ爲め必要の養分よりも少なき食料を與へ追々脂肪を消費し瘦せさする法です其食料の標準よろしく其醫につき年齡體重等に應じて計算をこひ之によりて食物を取らるゝが必要です。

其他適當に運動する事。時々入浴する事。發汗せしむる事。又は下劑を用ゐる事がありますが何にいたせ一旦醫師の診察を仰ぎし後其指揮に從がはれねばなりませぬ

質問者　下野　一會員

私妹結婚後一ヶ年にして姙娠致し身體は健全に候も常に白色粘液下る事有之候へば分娩後嬰兒の眼を消毒なさば却つて嬰兒の眼病にかゝる憂ひ之なく候や消毒藥方法等御敎示下され度願上候。

解答者　本會審事員

答　至極御注意深き御質問と存候。兎角世間には此等の事に一々頓着なき人多き爲め可憐の幼生兒をして一生失明の不幸に陷らしむるもの多く有之誠になげかはしき事共に存候。實に今日はかゝる不幸兒を容易に救ひ得るは醫學進步の結果とは申せクレデ氏の鴻德永く忘するべからざる事と存候。氏は夙に此事に注意せられ豫防策として次の如く唱導せられ候。「嬰兒の生れたる時は微溫湯をもつて先づ全身の汚穢物を洗滌し。然る後淸潔なる布片を通常の淸水に浸し之によりて眼瞼の不潔物を拭ひ去り着衣せしむるに先だちて少しく兩眼瞼を開らき硝子棒もて2%の硝酸銀溶液を角膜上に點眼すべし」と其法誠に

易々たる事に候へ共之により幾多の可憐兒は悲境に陷るを免れ候。其他産道の防腐洗滌法等有之候へ共到底前法の簡にして確實なるには及び不申候。此等の法は一般産婆の心得居り疑はしき場合には一々應用するに至らむ事切に希望する處に御座候。尤も御出産前一日も早く良醫の診察を受けられ適當の治療をなさるゝは勿論肝要と存候。

質問者　丹後の一會員

問　此頃女學生にかみの毛のしろきもの多く候が如何なる原因にか又治療の方法は如何にや御たづね申上候。

答解者　本會幹事員

答　女學生に限り頭髮の白きもの多しとの御質問に候が。之れは過度に精神を勞する爲め神經作用にて毛根部の營養障害を來し光澤を失ふに至る場合も有之べしとは存られ候へ共。左るかたくるしき理由を附するよりも之れは恐らく近來下げ髮束髮などの結方流行の爲め度々頭髮を洗滌し昔の如く油などこて〳〵ぬりつけざる爲め光澤少なく從ひて赤白ろく見ゆるのみの事と存じられ候が。如何のものにや御確答は致し兼ね候。

質問者　周防賛成員福光高之進

問　私義六七年前より慢性胃加多兒に罹り專ら治療を加へ候へども全治致さず而して昨春熱病に犯されそれが爲め胃は益々惡しく相成り運動の際時に胃部「ガブ〳〵」と鳴りて(手にておさゆるも全じく鳴る)候故醫師の診察を受け候處胃擴張と云はれ五十日間胃の洗滌を爲し夫れより今日まで殆んど八ヶ月水藥及散藥の二種を毎日服用致し滋養食として鷄卵四五ヶ宛を毎日用ひ候へども未だ全治せず尚胃部「ガブ〳〵」と鳴り殊に困却仕候處胃擴張は不治症に候哉全快するものなれば其治療法御教へ被下度偏に奉願候。

答解者　本會幹事員

世間には胃擴張に惱るゝもの割合多く有之候へ共其起源一様ならざる故勢ひ其豫後につきても一様には

申上兼ね候。即ち其源因は大躰區別いたし候へば二種と相成可申候。

(1) 器械的の擴張。此部類に屬すべきは。胃の十二指腸に移行する幽門部が器械的に狹窄を起こし。胃の内容物は容易に腸に送くり出す事能はざるに源因するものに有之候、而して其狹窄を起こすもの丶内には先天性の狹窄もあるべく或は後天性に幽門部の腫瘍(多くは胃癌にして惡性のもの)。潰瘍の治後の瘢痕(潰瘍は大量の血液を吐出し胃痛を伴ふ病氣)。十二指腸上部の狹窄。慢性胃加答兒にて幽門部の筋肉特に增殖し收縮する時。其他周圍組織に變化生じ出門部を壓迫する時等數へ來れば種々有之べく候。

(2) 胃壁組織の衰弱に因する擴張。慢性胃加答兒には過酸症とて胃液中の鹽酸常量より多き爲め胃壁の管養障礙せられ筋力消耗し弛緩したる時。不消化物を多量に攝取する習慣あるもの。種々の貧血病の結果胃の營養害せられたる時等種々有之是等の場合には往々神經衰弱症を伴ふものに御座候

豫後につきては源因の種々雜多なるにつき其良否も一様ならず。特に幽門部癌腫等より起こりしものは絕對的不良に有之候へ共。概して第二の部類に屬くすべきものは豫後も良にして假令根治するに至たらざるも少くとも適當の療法によりて輕快する事は望み得らる丶事に御座候。從ひて絕對的不治の癈疾など丶絕望せらる丶は早計も甚だしき事と存し候。療法も源因により多少の差異こそあれ。一般に食物としては滋養分を少量にとり。飲料は可成丈け扣目にし。牛乳も水分の多き割に蛋白質少なき故好みて用ゐざる樣にし。其他酒精分含くむものは總してよろしからず。又野菜の内にても大根人參栗など醱酵しやすきものは瓦斯を生じ膨脹せしむる故のぞましからず候。夫故可成濃稠にしてしかも消化しやすき食物をとる丶樣心かけられたく候。從ひて肉食。鷄卵。其他ミルクフード。ソマトーゼなど適當の食料に御座候。

藥用品としては　食物腐敗の恐れある時は防腐劑(石炭酸、楊曹、結麗阿曹篤、ベンチン等)。有痛の際には鎭痛劑、又過酸症のあるものはアルカリ性の藥劑を用ゐる。其他胃內容物を速やかに腸に送くる爲め輕度の下劑を用ゐる必要も有之候。

御質問中に有之候胃の洗滌は頗るよろしく候が之を行ふ時期により其功も著しからざる事往々有之候。之を行ふに適當の時間は夕食後五六時間に有之其際洗滌液の濁溷せざる迄洗ひ去り終夜胃をして靜養せしむる事肝要に御座候。誠に腹も身の內なれば身躰と一樣に働らく時あれば休む時も必要に有之候。そこで胃は食物を消化するか職務に候へば。少量の食物を取りても胃全躰か働たらく故時々湯茶をのみ又は間食する抔は悉くよろしからざるものと御覺悟然かるべく候。同し洗滌にても朝行ひ候ては直ちに胃を使用する故其功能も著しからざる事と大成可申候。洗滌液には通常單なる微温湯を用ゐ候へ共粘液の分泌多き場合。醱酵のある場合などには夫々之に對し藥品を混ずる事も有之候。

其外胃部の按摩。適度の運動。胃部の冷水浴。皆有功の療法に有之候。特更神經衰弱症等なるものは强壯劑を用ゐる身躰一般を强健ならしむる樣務むる事必要に有之候。要するに素人考にて藥品を用ゐらる事は凡て危險に候へば只一般の養生法を嚴にし宜しく良醫の診案により適當の藥劑を仰かるゝ事肝要に存上候。

質問者　愛知　一會員

問　アルミニユーム製器具を食器、煮沸器に使用して衞生上無害に候や示教被下度候。

答　アルミニユームは凡ての反應殆むど鐵と相類し居り候へば食器煮沸に御使用ありても差支御座なく候。加之金屬中尤も輕きものなれば旅行用などには至極便利と存候。現に大坂砲兵工廠にては盛に製造中のよしに聞き及び候。

質問者　東京府下八王子一會員

問　私夫義多年脚氣病にかゝり醫藥を用ゆれども未

だ根切に至らず大に困り居り候何か宜しき豫防法あらば御教示の程願上候

答解者　本會幹事員

答　脚氣の病源につきては猶學者間に議論ありて一致せざる有樣に候へば。從ひて其豫防法としても一定のもの御坐なく候。兎に角一般の衛生に注意せられ健康を維持せらるゝ事は必要に有之候。特に狹き場所に多人數雜居する如きは避け。身体にまとう衣服は時々洗濯し。身体精神とも過激に使用をつゝしみ。食物飲料に注意して胃腸を害されざる樣用心せらるゝ事肝要に御座候。

殊に食物に關しては昔より注意し米飯を以て唯一の源因となす學者もある程にて兎に角主要の關係ある事は疑ふべくも御座なく候。我海陸軍にても食料を改良し一般衛生を嚴にする以來著しく患者の數を減ぜしとの事に御座候。彼の脚氣發生時期に先たち新春より米飯に挽割麥を混し又は萊豆、大豆、小豆等を混し用ゐるは有力なる豫防法にも有之一は治療の一法にも有之候。

其他適當の高燥の地に轉地して俄に著しく病症の輕快せし例なとは往々見聞する所に有之從ひて低き濕地は可成避けらるべきは申す迄も御座なく候。茲に是等轉地を適當の地を一二御紹介し候へは先つ東京附近にては野州日光、信州輕井澤、上州草津、相州箱根、京都附近なれは有馬、九州にては島原等よろしく候。

其外過度の運動。海水浴。熱き湯に浴する事。などは必らず病狀を增惡せしむるものなれは悉く注意せられたき事に存候。以上列記の事項を御參考の上御攝生候はゝよし脚氣に犯さるゝとも輕度に經過する事と存候。

質問者　秋田會員　と、き、

問　妾は本年三十歲なる處十八の頃劇性の窒扶斯に罹り辛くも一命丈は助かり侍るも其後兩耳共頗る遠くなりていと不自由なるより今を距る十年前上京して金杉ドクトルの治療を乞ひしに最初は一ヶ

月餘にして治すべしとの事なりしに三ヶ月餘を經るも格別効橡なく賊に落膽いたし侍りぬ近來は大に醫術も開ければ十年前とは又異なりたる新療法もあらんか其有無並に平素の注意方を知らせ賜ひねかし

答解者　本會幹事員

答　腸窒扶斯後に重聽を遺こすのは多くは中耳炎の結果でありますが。其具の源因が聽神經の病變を受けしによるか。耳の內の響きを傳たへる小さき骨と首の間の關節が動かなくなりしか。鼓膜の肥厚せるによるか。又は穿孔せる爲か。咽頭腔より中耳に通するオイスタヒー氏の管の閉塞に因るか種々の源因があるから診察の上ならでは何とも御確答は申上兼ますか一生重聽をのこすものが多い樣です。

質問者　新潟會員　齊藤らく

問　前略　第百五十三號婦人衛生雜誌講演欄內に於て(鼻の話)と題し醫學士久保猪之吉君の講演中「鼻の頭になつて居る所は解剖學上て調べますと血液が澤山入つて居るから何時でも少し赤へ色をして居ります其處には脂を分泌する脂腺と云ふのが鼻の近傍に於て大變發達して居る中略就ては私の友人にて鼻の近傍何時でも脂肪分泌する口なるかぽツ〳〵穴のあいたよふになりそれを爪の先にて強く押すときは白く細き虫のようなる根のようなるものが出で即ち(根び)とかいふ者にて困り居候間是れが療法これあり候へば御教示に預り度又そばかすのくすりも又赤鼻の治療法等も前陳の通り御依賴申上候

答解者　本會幹事員

御質問の病氣は皆皮膚病にて之に用ゐる膏藥などは危險のもの有之とても素人の方に御手まかせに致しかね候。且つは田舍の藥舖にて出來得るや否やの懸念も有之候へは只割合危險少なき藥品御紹介致し候(1)鼻の兩側の鼻唇溝附近の脂肪分泌多きは粉刺と申す疾患に有之候之れにはクムメルフエルド氏の洗滌液有効に候其處方は次の如し。

沈降硫黄　十二、〇
樟腦　一、〇
亞剌比亞護謨　六、〇
石灰水
薔薇水　各一〇〇、〇

右の混合液の上澄を朝一回顔にぬり。夜分は其沈澱物を塗布せらるべく候尤も朝夕一回宛より餘分にならさる事はよろしからず。又同時に白粉を用ゐらるゝ時は眞黒と相成申べく候間豫め御斷はり申上おき候。

(2)「そばかす」は後天性母斑と稱し兎角治し難きものに有之候。治法は筆の先きに流動石炭酸をつけ一つ一つの斑點にぬりつける時は自然に後に薄くなり可申候。又は次の藥を一日に二回づゝ塗布せらるゝもよろしく候。

硼砂
炭酸加俚謨　各一、五
グリスリン　二〇、〇
薔薇水　八〇、〇

(3)赤鼻は酒渣鼻と申し之を患ふ婦人は多く同時粉刺も有之子宮病胃病有之候へば先つ以つて是等を治する必要有之左すれば赤鼻も自然に治し候手輕の藥品は

1%イヒチオール酒精　一〇〇、〇

右一日二回患部塗布

其他亂切法にて血液を去る法有之候へ共是等は醫につきて相談せらるべし。



衞生時事

醫學士　久保猪之吉

●時節から●

から雨がふりつゞいたり、急に寒くなッたり、又暑くなッたり、不順では流行病がおそろしい、例令「コレラ」でなくとも、下痢や、風引が多くできるに間違ひ無い、すべて時候の變り目が一番コワイ。色々

注意のある中でも飲物食物の注意が肝腎です。飲ものでは氷水が一番注意すべきものでしやう。氷で冷すだけなら、まだよいが、氷そのものをガリ〳〵食べるのが今の人の習です。又氷水やの器物ほど穢いのはありますまい。不充分の水——しかも誰ののみかけを洗ッたか分らぬやうな中で洗ふまねをして、中には洗ひそゝぎの水の滴の附いてをるものに、氷を削ッてよこすのでしやう。それを考へたならば、氷やの氷水はのめない。それを客人に御馳走するのは失禮です。それに又氷やの砂糖水といふものがあやしい。安心してはのめない。とにかく氷店の氷水は注意せなければいけません。」

●洗ッた器物●

洗ッた器物は奇麗にふきて乾して納はなければスグに溜ッた洗ひ水に黴菌がわきます。茶碗の中に舊い洗ひ水が珠を爲して溜ッて居るのでゴ飯をよそはれては誠に氣持のわるい事です。その水の中には丁度庭の水溜りに無數の小さい虫かわいて居るやうに顯微鏡で見ると限りも無く色々の黴菌が居るのです。しかるに是等の黴菌は太陽の光に對して抵抗する力が弱し、又水分が無くては發育たない。ですから器物等を洗ッた時は、能く水の流れるやうに俯せておき、後に乾いた布でふき火か日光でよく乾かすやう女中に申し付けねばなりません。」

●勿躰ない●

私なども幼さい時分能く老人にいはれたものです。少し腹が太くなッて食られなくなッた時に食物を殘すと『勿躰ないからオ上り』と。又足のあとある盥の上にこほれた飯粒一粒あッても『ふむと罰が當る』『駄目にすると目が潰れるから拾ッてオ上り』かやうにいはれて居ッた。米か食物の主になッて、人間が客になッて居る姿でした。それもその筈でしやう。名高い人の詩などにも『粒々皆辛苦』といふ事がある。即ち百姓が夏のあつい日に頭から足の先迄汗や泥にまみれて田植をし、田の草をとり二百十日や二百廿日の天氣を心配してはじめて、收獲た

米ですもの。米が無ければ三度の食事ができなかッた昔時の人の考では『勿躰ない』といふも無理が無い。しかしながら今日の如く衞生の事が開けてみると米よりも身躰が大切である、米を貴み、民の苦勞を思ふは結構ながら、餘計のものや、腐ッたものを食べるのは濟まない話である。その爲に胃をこはし腸をいためるやうでは、大きな間違です。文明の世に生れた方々は、その邊の道理を心得て、自らも人をも注意せねばなりません。』

●鶴は千年●

貝原益軒といふ人がよくいッて居る『凡べて飲食は八分を以て十分と心得よ』と。その通りです。器に水をいれるのもソーです八分目入れて丁度、十分いれては溢れる計りです。昔、ある解剖家が、鶴の胃袋を割いて見た所が、その胃にはいつでも食物がわづかしか入ッて居らぬ。しかるに鷄の如きものゝ胃袋には一ッぱい詰て居る。それて鶴が千歳の齢を保ッ事の偶然でないといふを知ッた話があります。

コレは妙味のある事と思ふ。』

●不養生と不經濟●

不養生ほど不經濟のものはありません。多く食べれば食べる程費用がかゝりその上食傷のおそれあり。「コレラ」の如き傳染病にかゝるのも唯「コレラ」の病毒を飮んだばかりでかゝるものではない。たべすぎをして胃や腸やの活きを弱め、抵抗する力をなくするから「コレラ」の毒がきてもすぐ感染るのです。之ほど不經濟の話はありますまい。唯醫者や藥やに費用のかゝるばかりで無く、大切な一命を失ふの塲合がある。昔の人の『口は禍の門なり』といッたのは、おながち、おしやべりする事ばかりをさしたのては無く飮食物を注意せぬ人もさしたのでしやう。』

●臺所の不經濟●

「勿躰ない」からといふのもますやうに澤山食物をつくるからです。例令ば夕飯においしいオ萩を拵らいたとしましやう。足りない所でオイしい、モット

食べたいとおもふ。所が、あまッたとしてゴランナサイ、明朝迄おいて腐らせるのもをしい。そこで例の『勿躰ない』が起る。食べると僅かの事で腹をわろくする。僅か位食べても何でもあるまいと思はうが、ソーてはありません、丁度水を器に入れるやうなもので僅か一つぎて溢れる事があると同じてす。又幸にして明朝迄取ッてのこしたとしてゴランなさい。例へ腐らずとも餡は酸くなりましやう、少しは臭が出ましやう。しかし折角作ッたものを唯すてるもおしい。そこで又例の「勿躰ない」がはじまる。かくの如く「勿躰ない」を起して胃や腸をいためるのは凡べて臺所のゴ主人經濟が下手な爲から起るのですから、諸姉篤とゴ注意あらむことを願ひます。

●下水のすて道●

顔を洗ッた水、浴の水、膳椀を洗ッた水、食物をすゝいだ水、等皆下水となッて家の内から流れ行きます、殊に夏は水を使ふ事が多いから下水が澤山あふれる。それてすかそのすて道が適當になッて居らなければすぐに溜ッて溢れる、溜ッた水は腐り切ッて孑孑や蛆虫が湧き蚊や蠅や、色々うるさい虫類の製造元となる。又溢れた水はまはりに臭いにほひを弘める。又一部分は土の中に吸はれて這入ッても失くなる譯ではないからつまりその邊の土地を濕氣にさせる。いづれも夏の衛生には最も注意を要する事である。下水は成るべく家のまはりに溜めぬやうにし、又外へ導くならば常に疏通のよくつくやうにし決して溢れさせる事があッてはならぬ。」

●便所の位置●

夏の暑い盛りには物が早く腐敗し分解するが爲め、便所などは最も臭くなる。流行病の樣なものは便所掃除の不始末な爲めに弘がる事がある。それて便所のやうな所は平常ても、臺所とは離し、井戸とも離し、又住居の室とも遠くに作るのが必要である。又客間の座敷からなどは見えないやうにするのがホントーである。しかるに日本ては、井戸と並べて便所を据え、臺所の流と便所とを共通にする所もある。

又座敷の椽側には必ず便所があり、手洗鉢とか、不潔の手拭といふが庭先の装飾品になッて居る所が多い。それに食事の時など、不浄の場所にゆき又は口にする事を忌むてはありませんか。便所のかへりがけに用ゐる手洗や手拭を御馳走の前にブラツカせて置く事は宴會の席に大便小便を云ふと同じではありませんか。ですから便所だけもせめて座敷からはなれて臭のせない所にあらせたいものです。臺所や、井戸とは勿論遠くへだたッた所にあらせたい。

●便所の掃除●

東京の眞中で貸家をかりて住居ふ假りの宿りにては便所の位置も自由に取りかへる譯に行かない。せめては便所の掃除を怠らず。外より不潔のやうすが見えず、又臭がせぬやうに心がけなければなりません。それには便所の掃除が大切です。いつでも溜らないやうに注意し早く汚穢を掃除させ、便所のまはりは清潔にして青々した植物でも植ゑおくがよろしい。次には便所の臭が漏れぬやうに便所の壺に蓋が出來るやうにするか、又は一度ぎりに便を運び去るやうにするが宜しい。しかし借家住ひ等ではそれもむつかしい。唯便所出這入りの戸締をよくするが最も必用である。又一時臭をとめるには何か便所の中へまくか入れるかするのです。近來能く用ゐられるのは「アルボース」といふ藥です。コレハ小さな「ブリキ」壜に入ッて居る乳のやうなドロ〱した液です。之を水で薄めて用へばよろしい。之を撒くのに如露の小さいのがあります。それで撒けばマンベン無しにまける。ソノ臭はわるくないから、石炭酸などを撒くよりも輕便でよい。代價も一壜拾錢内外位のものです。又灰をまいたり、桐の葉を投げ入れたりするのは在來俗間に用ゐられた方ですが藥液のやうに十分利き目はありますまい。桐の葉を用ゐる事はドコでも一つだとみえて、ワタシが先年佐渡の方へ漫遊に參ッた時ソコの人がおこした歌にコーいふのがありました。

待ちわぶる君來や〱とけふも亦

厠清めて桐の葉しきぬ。」

●便所の消毒●

傳染病が起らぬ内に夏時は一月か半月に一度便所の消毒をするが宜しい。一番手輕なのは木灰（あく）を不淨物に加へて攪拌するのです。例令ば吐瀉物などがあれば種々の藥といッても直ぐ樣間に合はない。ソレて先づその不潔物の五分一だけの木灰（あく）をふりかけてかきまぜるのです。木灰（あく）と申しても藁の灰や石炭のもえかすではいけないのです。若し灰の汁として用ゐるのには水四倍にとかしたものを不潔物と同じ分量だけ加へるのです。」

生石灰を用ゐるのは一番よろしい。しかし此は前以て貯へておく必要がありますから木灰のやうに急の間に合はない。」

●石灰を用ゐる心得●

石灰が消毒によろしいと申しても壁塗師が用ゐる粉では役に立たない。前に申した生石灰が必要なのです。生石灰といふのは通常「ブリキ」の鑵に這入ッてをる石炭塊のやうな併し白い塊です。一寸水をそゝげば、すぐ煙をだして熱が起りはじめてくづれます。此くづれたのが生石灰末で不潔物の五十分一用へば十分消毒できる。又生石灰に九倍の水をしづかにそゝいでくづせば石灰乳が出來ます。此石灰乳は通常大淸潔等に用ゐる品で便利です。たゞし生石灰末の五倍即ち不潔物の十分一を使はなければなりません。又やむを得ずして普通の石灰を使ふ事がありますがその時は生石灰の倍だけ用ゐるのです。傳染病が起ッたといふ場合にはドンナものでも選ぶ間が無い。消毒の目的を達すればそれでよいが、平時用ゐる時には臭の事や外觀の事やも考へねばならない。石灰乳は消毒には宜しいが撒いた跡がしばらく白くなッて居ッて見苦い。それですから外から見えるやうな場所は千倍の昇汞水（クスリヤで求むるがよろしい）をふりまへて——コレは石炭酸のやうに臭がありません——石灰乳を用ゐぬ方がよい。あの裏通の横丁などを通ッて見ると大掃除のあとに無暗

矢鱈に塀や壁やに白く石灰乳をふりまいてある。アレハ消毒の精神を誤ッて居る計りで無く甚だ見塲のわるいものである。」

●箴言

易に曰、思レ患豫防之。いふ意は後の患をおもひ、かれて其わざわひをふせぐべし。論語にも、人遠き慮りなければ、必近きうれひありとの玉へり。是皆、初に慎んて、終をたもつの意なり。（養生訓）



內外實用料理

女子美術學校舍監今附屬料理法講習所主任　横井玉子

●胡瓜のサシヅ

太き胡瓜の皮を剝き二ッ三ッの輪切りにして中の種を抜きよく水にて洗ひ水氣をとり一斤の肉なれば小なる玉子一個鹽胡椒をふりよくたゝき交ぜ胡瓜の中へつめ込平鍋に油とバタ少々ひき其中にならべ暖爐の中へ入れて燒くべし、壹人前二三個ヅヽ盛りて卓に上す

●別製牛肉のスチウ

先づ牛の肋骨肉二斤を玉子の大さに切り之れをスチウ鍋に入れその稍隱るゝ程水を注ぎ文火にて凡そ一時間半煮たる後その煮汁の上に浮きたる渣滓を掬ひとり胡蘿蔔一本を五六分位にきり、馬鈴薯六個位の皮をむき之を二ッ若しくは四ッに割り（いづれも面とりにすべし）球葱五六個（日本の葱を代用すれば七八本）を刻み大匙一杯の食鹽茶匙半杯の胡椒と共に鍋に蓋をして更に一時間位文火にて煮るべし煮へたる時少し酢を注し加減すれば夏向きの料理には冷へても却て味ひよろし但し焦付かさる樣注意すべし、

●麥面の（スープ）

先づ麥面又は、通心麵（之は西洋の麥面なり）を五六寸に切りて之を湯で一旦湯より揚げてその湯をこぼ

し肉の煎汁を程合に入れ之に牛酪と鹽少計を加へて凡五六分間煮たる後鹽加減を試みて適宜の醬油を注しその沸たつを待ちて皿に盛り胡椒を適宜に振りかけて食すべし

●葡萄の(ジヤム)と(ゼレー)

葡萄　五百目、砂糖　四百目餘

始め「スチウ」鍋にざら目砂糖を入れ、砂糖のとけたるころ葡萄をちぎりて水にて洗ひ鍋に入れ暫時煮れば汁出て丶皮は上に浮上るなり直ちに鍋を火よりおろし他の鍋に篩を入れ置きその中に前の煮たる葡萄をこしてその汁のみを文火にて二時間半も煮つめ(匙にて掬ひ上げどろ〱になりたる時を適度とすべし)鍋をおろし少し冷たる時口の廣きガラス瓶に入れ蓋をし叮嚀に目貼りして貯ふべし之を(ゼレー)といふ、夏菓子のカンテン杯の中に此(ゼレー)を少し入るれば至極妙なり又はパンにつけて食すれば(ジヤム)よりも上等なり、前に篩にのこりたる皮と種はそのまゝ一時間位文火にて煮つめ裏ごしにして瓶に入れ又は鑵詰になせば永年之を貯へ置くも依然としてかわることとなし但し二三週間の中に用ひつくすべきものは目貼りするに及ばず

●葡萄水

葡萄　一貫目

白砂糖　五百目

水　五合

先づ葡萄をちぎり水にて洗ひ砂糖を鍋に入れとけたるころ葡萄を入れて二タ吹三吹煮たつれば汁出て丶皮の上に浮び上りたる時篩にてこし温氣の全く冷ざる中瓶に入れ(コロップ)にて口を確とし樹油を流して密封して温氣のあらざる所に貯へ置き夏は氷の中に少し入れて呑料にすべし冬は茶碗に沸湯を入れ其中へ注し用ゆれば味ひ妙なるのみならず葡萄酒よりも滋養になるなり

●箴言

控よりも後ろは殊更心して
まつたべ物は控へめにせよ

中外彙報

●俄然横濱に「ペスト」の發生

傳染病中尤も恐るべき「ペスト」は今回俄然横濱に發生したり横濱の騷動は實に容易ならざることとなり幷は同市海岸通り五丁目人足請負業なる佐々木石右衛門長女ゑ品(十六)とて高等女學校へ通學し居れるものにて去月廿九日の朝何となく心地惡しきとて食事もなさず床に就きしが夫れより發熱甚だしく脈搏急にして頻りに渴を訴へ湯水を嚥下すると夥しく病氣も只ならず見えしかば同地の醫師山中隆千氏の診察を受けしに体温四十度以上を昇降し脈搏は八十二弱にして心臟の動悸はげしく舌苔は白くなりて渴を訴ふること頻りなり翌一日更に身体の全部を診察せしに股腺に異狀を呈し辺々腫れ上りて鷄卵大となり心臟は大に疲勞し脳病の氣味あれば茲に疑似黑死病と推案し夫れより大騷ぎとなり同市十全病院の廣瀨院長の立會診斷となり內務省傳染病研究所よりは第二部長なる柴山醫學士は血精を取り顯微鏡的試驗を行ひ其結果腺ペストなること明かとなり一方には海岸通に大交通遮斷を行ふに至りしが尚續々患者發生の模樣あり實に容易ならざることとなり野田防疫課長には實况視察の爲め同地に出張中取調べ中なりしが今其後命の要旨を記さんに初め横濱市海岸通五丁目二十番地に於て斃鼠を發見せるは既に二三ヶ月前にあり其後引續き家鼠は一般に減少し該附近人民は火災の前兆にはあらずやとて頗る疑惧したる事もあり又今回發見せる斃鼠の如きも何日頃斃死せる者なるや判明せざれども鈴木シナなる者罹病以來同家及隣家薪炭商方其他三井物產の倉庫或は東洋汽船會社等より七八頭の斃鼠を發見し是等は皆黴菌を有し居れりと又同市役所の交涉の結果鼠驅除のため前記二十番地一帶即ち此戶數凡そ三百戶人口千五百人餘の區域に對し交通遮斷(家鼠の交通遮斷)を勵行するが爲め丈餘の板塀を以て圍繞し又一方には海岸に於ける同番地及び附近の石垣のすきまにはコンクリートを

以て密閉し鼠の出入を杜絶し該區域内に於ける勞働者には夫々市役所より救助することに決し之れが撲滅に官民一致して奔走し居り頗る其豫防法に行き屆き居れりと而して其系統に關しては未だ判明せざるも多分上海より輸入せる船舶内に於ける貨物中にペスト菌附着したる者を同貨物と共に鼠が上陸し其鼠より病毒を傳播せしめたる者ならんか尚今後も多少該患者發生を見るならん而して此際世人は一般にペスト菌附着の疑ひある古綿落綿古着古羽毛古反物等は一層警戒せられたき者なり云々

●「ペスト」に關する柴山學士の談片

▲系統　横濱に於て發生したるペスト病は試驗の上愈々眞症ペストと決定せり此のペストの病系は上海より輸入されたる綿花中にありたる鼠矢中にペスト菌を含有したるより傳染せしものと思はる鼠に傳染する理由に至ては分明ならざれども鼠は友食する動物なれば感染し易きが如し猫は食物として鼠を嗜むが故に是亦た危險なり尤も猫の感染に就ては試驗十分ならざるも當所の試驗にては十匹中六匹迄傳染したり特に小猫は能く傳染したりといふ

▲ペスト菌　は抵抗力に乏しと雖も寒氣に耐ゆる力あり即ち他の傳染病菌は攝氏十二度以上の熱にあらざれば繁殖せざるもペスト菌は五度に於て十分繁殖し零度以下四十度迄は生息し得る特質あれば今日秋冷の候と雖も決して油斷すべからず殊にペスト菌は食物より傳染する肺ペストが空氣に依て傳染する外は皆な身躰の創所より侵入す凡そ人躰は人々皆多少の創傷あり勞働者の如きは一人も無疵の者なし一層注意すべきなりと

▲繁殖の狀況　は血液を吸收するものにあらず一個の菌が分裂して二となり忽ち躰形をなし四となり八となる譯にて增殖非常に駛速なり其速度は先づ菌二分間に一回分裂するが如しペスト菌は侵入したる創所に於て直に繁殖するもの尠なし先づ身躰の上部より侵入せるものは頸下腺に手より侵入せるものは腋下腺に足より侵入せるものは股下線に下腹部より侵

入せるものは鼠蹊線に腫震を生じ漸次繁殖して血管に入る血管に侵入したるものは十中八九死亡を免れず

●●●

▲治療法　に二種あり一は腫物を切開しペスト菌を排出するに在り此方法は手術の未だ適當せる器械及び手段を發見せず故に果して肉内の菌を全く取去りたるや否やを知るに由なし他の方法は血精療法なり此法は菌を屠殺すべき毒を馬躰に於て醸成し之を注射す臺灣に實驗して好成績を得たり云々

●死體撿案の訓令　神奈川縣知事は左の緊急訓令を發せり

一全市内に於て鼠族驅除を行ふべし

一常に死亡者を撿閲し下記の病症は市醫をして其死體を撿案せしむ、腦膜炎、肺炎、肋膜炎、脚氣衝心、卒中、心臓痲痺、マラリヤ、丹毒膿毒、敗血、梅毒、便毒、其他腺腫又は發熱あるか、卒然死亡せし等ペストに疑似せる急性病

一海岸通十九番地二十番地の健康診斷及び消毒的消潔法を行ふべし

▲家屋燒拂のこと　海岸通五丁目二十番地即ち發生地の家屋は此際悉皆燒拂ふべしとの議起りしも斯くては却つて鼠族の他に逃遁する虞あり且つ同所は海岸の石垣に多數の鼠棲息し假令家屋を燒拂ふも其効尠かるべしとて燒拂は一と先づ中止と決せしが又々燒拂のことに決せしといふ

●警視廳の告諭　警視廳にては去十日ペストに關する左の告諭を發せり

今般神奈川縣下に「ペスト」疑似症發生せしに付ては左に掲くる事項を守り豫防方一層注意を加ふ可し

一　鼠族は「ペスト」病毒傳播の媒介を爲すものにして豫防上最も警戒すべきものなるに付各戸に於て力めて之を驅除すること

二　斃鼠の發見には特に注意を加へ之を發見したるときは明治三十二年十二月警視廳令第二十九號に依り警察官吏に屆出づること

三　鼠族は手を觸れず箸類を以て之を取扱ひ且鼠

族に附着せる蚤の人體に移附せざる樣注意し箸類は使用後直に燒却すること

四　家屋の内外は常に清潔にすること

五　豫防上跣足を戒むるは勿論苟も手足に傷損ある者は速に相當手當を爲すこと

（參照）警視廳令第二十九號

家屋若は宅地内に於て鼠の死體を發見したる者は消毒前速に書面又は口頭を以て警察官吏又は檢疫委員に申告すべし本令に違犯したる者は一圓以下の科料に處す

本令は發布の日より施行す

●跣足禁止令施行區域　警視廳に於ては從來跣足禁止令の施行區域は市内のみに限りしが今やペスト患者接續の横濱市に續々發生するの現狀なるより其區域を擴張し同令をして品川内藤新宿八王子千住南千住等の市街地には之を適用しペスト豫防の爲め之れが勵行を爲す筈なりと

●東京市鼠買上　東京市參事會にてはペスト豫防費を決議したるが原案は一萬圓にして内五千八百五十圓を鼠買上代金に充て一頭三錢とし十九萬五千頭に該當する額にて十五日間を見積り殘額は病院費、人夫費、買上に關する諸費に充つる筈なりしが參事會は之を倍して二萬圓とし三十日間家鼠買上を斷行することゝ決議し去る十七日より實施せり

●「ペスト」豫防的驅鼠法成蹟

臺南廳に於ける「ペスト」豫防的驅鼠法成蹟に付き臺南廳防疫副部長築山揆一氏より報告せられたり目下横濱に「ペスト」發生の折節尤とも適切なるを以つて十月十日掲載の官報中より其大意を拔萃せん氏は先づ先輩の「ペスト」と鼠族の關係説と鼠族の蕃殖を陳べ次に大坂神戸兩市の驅鼠法成蹟本島人の鼠肉を食ふ習慣及び臺南廳防疫部の驅鼠成蹟を擧げられたり

第一　先輩の「ペスト」鼠族の關係説　此説は既に十三世紀來學者の間に唱導したれども未だ精細の試驗成蹟によりたるものにあらずして唯人「ペスト」流行に先ち多數の斃鼠を見ると云ふに過ぎざりき然るに

千百九十四年香港に於て「ペスト」菌發見せられし以來彌々確實の證左を得るに至れりと諸説を列擧せられたり即ち千三百四十七年ニチエホルス氏はヒツアンツに於て千三百四十九年ギーリス氏は夏季フランテルンに於て千七百七十年オルレウス氏は墨斯科に於て千八百七十二年ロツヘル氏は雲南に於て千八百九十四年レンニー氏は廣東に於て何も人「ペスト」發生の前には大鼠小鼠の多數斃死せることを唱へしと述べ次に我が北里博士は千八百九十四年香港に於て斃鼠の臟器中「ペスト」菌を見出しアルプレヒトゴーンの兩氏又千八百九十八年孟買に於て街路に死したる大鼠中に檢出し獨逸國「ペスト」調査委員も亦之を見出せりと

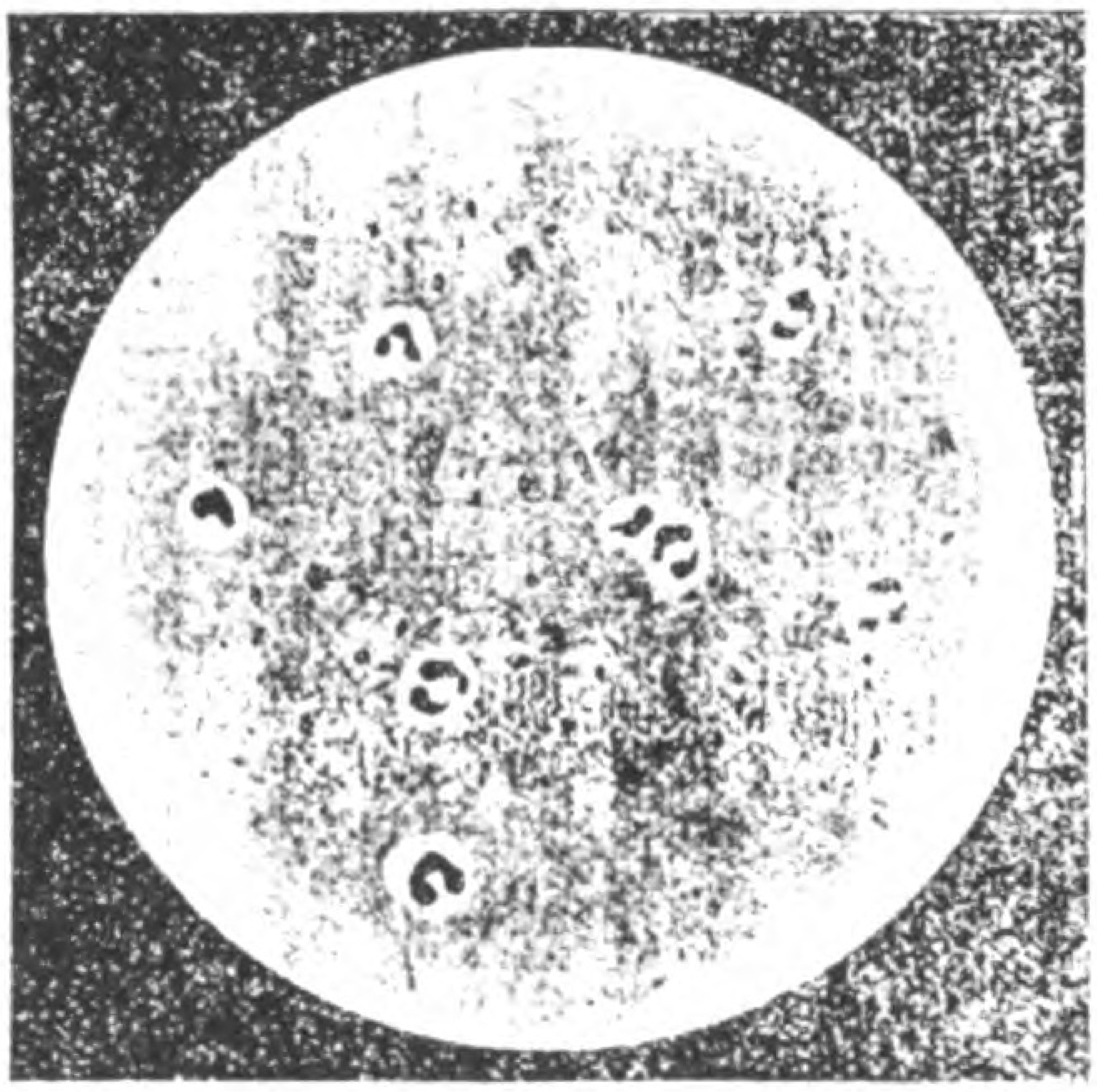
●鼠「ペスト」は人「ペスト」に先つ

コツホ氏はウガンダ「ペスト」流行地より報じて曰く鼠「ペスト」は屢々人「ペスト」に先つものにして二頭の斃鼠を檢せしに悉く「ペスト」に罹りたるものたることを證せりキシバの土人は死鼠を見出すときは之を食ふにより人「ペスト」を起すものなりと

●人に傳染するものは肺「ペスト」

コツホ、マルチニーの兩氏は曰く、ペストは流行學上より人に傳染するものは肺「ペスト」のみにて「ペスト」死體の如きは決して危險多きものにあらず何となれば「ペスト」病源體は腐敗したる人屍並に動物の死體に在ては速に死滅するが故に墓地より一回も傳染したる例なしとす傳染の最初は鼠「ペスト」よりするものにして其人體に感染するには數道あれども小蟲よりするは僅少に屬す何となれば大鼠小鼠の蚤は人を刺すことなければなり故に「ペスト」豫防の最良手段は鼠族を撲滅するに若くものなし云々又消毒法は鼠族を驅逐し且鼠族に感染する所の塵芥其不潔物等に付著せる「ペスト」菌を消滅せしむる法を講ずべし(下略)又コツホ氏の説に曰く「ペスト」撲滅の方法に就ては近時長足の進歩をなせしに拘はらず本病は孰れも處にも傳播し二三の場所に於ては非常なる侵害を致せり此の傳播たる最近の經驗により「ペス

ト」患者は主として肺（ペスト）患者のみ傳染性を有するも此症幸ひに稀有に屬し他眞の傳染主働者は彼の鼠族にして海外交通により本病の傳播するは船中鼠族の媒介によるを知り得たり又故意に若くは偶然に鼠族を驅除せしために「ペスト」流行速に消滅せしこと及び他の場所に於ては鼠「ペスト」に注意すること少なかりし爲め本病の絶滅せざりし事實をも發見せらるゝに至れり實に往時は人類「ペスト」と鼠「ペスト」との關係は全く不明なりしを以て其當時の豫防法は成效を見ざりしとて敢て之を非難するを得ざるなり獨乙國にては法律として「ペスト」豫防法を設けありて斃鼠の處置法を規定せり



肺ペスト菌

以上古今學者の諸説を湊合するときは鼠族は人「ペスト」の主動者なること毫も疑ふ所あらず云々下畧

●鼠族の蕃殖

鼠族の繁殖は實に夥しきものにして飯島理學博士及第三高等學校の調査を報告されしが要するに鼠は交尾後二十一日にして分娩し生後十日にして眼を開き百日にて交尾し一回毎に平均家鼠は十四内外蓄鼠は五六匹田鼠は最も少く二三匹を分娩す分娩後七日を經れば忽ち交尾し分娩度數は不定なれども三四回多きは十二回に及ぶことありといふ生後一ケ年を經たるものは老鼠にして交尾期遲く産兒も漸次減少して二年末に至れば僅かに一二匹を分娩す故に一ケ年以上のものは蕃殖に不適當なり二ケ年後に至れば多く老衰して斃る家鼠及び田鼠の生存期は三年以内とす云々

されば鼠旅は實に莫大の蕃殖を爲し捕ふるも盡さず殺せども減らず到底全滅の望なきが如しと云へども

實際に於ては否らず先年大坂市に於て二十四万頭餘の捕殺を行ふてすら旣に大に其數を減ぜしと謂ふ臺南市の如きも亦然りと

●大坂神戸兩市の驅鼠成蹟と患者數

我國にては古來「ペスト」流行の歷史を有せざりしが明治三十二年冬期俄然神戸大坂の兩市に侵入し甚だしく國家の頭腦を惱ましたりしが豫防消毒の方法其宜しきを得て數回の發歇はありたれども遂に少數の發患にて流行は止ぬ兩市の患者數は左の如くなりき

大阪市「ペスト」患者及死亡數

第一回	自三十一年十月十八日 至三十二年一月十一日	患者四十二人	死亡三十九人
第二回	自三十二年四月三日 至仝年六月三十日	患者四十四人	死亡四十人
第三回	自三十二年九月八日 至仝年十月三十日	患者六十四人	死亡五十二人
合計		患者百五十人	死亡百卅一人

神戸市「ペスト」患者及死亡數

第一回	自三十二年十一月一日 至仝年十一月廿二日	患者二十二人	死亡十九人
第二回	自三十三年十月十八日 至仝年十月二十日	患者三人	死亡三人
合計		患者二十五人	死亡二十二人

今此患者數を人口に比較するに人口多數なるに拘はらず僅に一万人中一人强に過ぎざりき是れ蓋し豫防消毒の方法宜しきを得たるものに外ならずといふ而して其方の最も優效なりしは鼠族驅除法にありきとて大坂神戸に於ける捕鼠の統計及び詳細なる檢査成蹟を擧げたり

其表に由つて考ふれば有菌鼠の多寡と「ペスト」流行とは畧ぼ一致せり即ち第一回の流行は三十二年十月十八日より三十三年一月十一日なるが檢査頭數不詳なるも數頭の有菌鼠を出し二月三月に於ては「ペスト」發患なきも有菌鼠數は增加しつゝありて大なる潜勢力を有したりしが四月に至り破裂して第二回の流行を來し六月に至りて止み是と同時に有菌鼠は一旦消失せしが九月に至り後有菌鼠を見ると共に第三回の流行は來りぬ同年十二月に至り有菌鼠の減少すると同時に流行全く歇みたり然れども尙捕鼠を繼續せる結果遂に客年九月以來は有菌鼠全然消滅し今日に至り一も檢出することなしといふ

●鼠肉と「ペスト」の關係

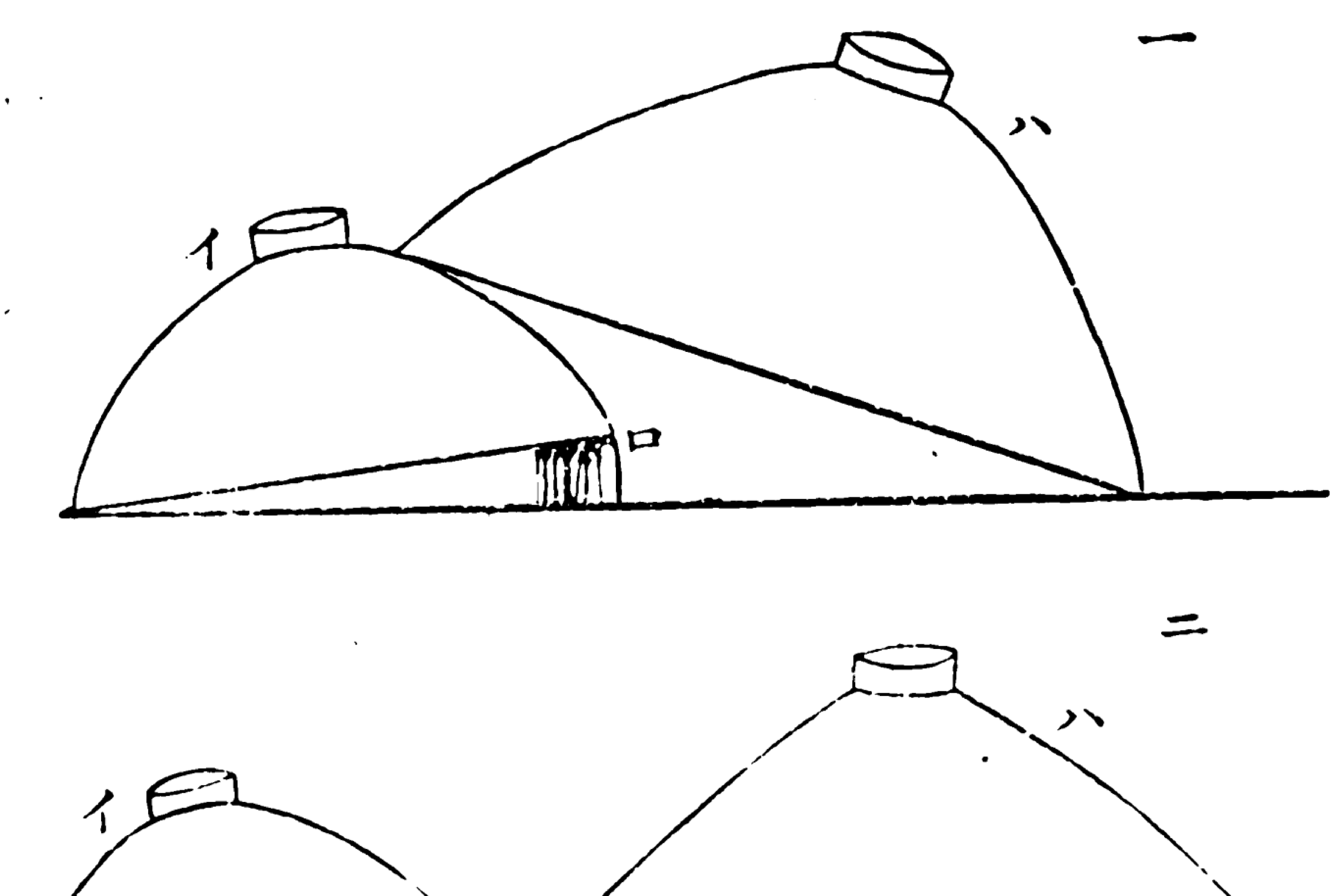
次の第四項には本島人は鼠肉を食ふ習慣あるが爲め

に「ペスト」感染の機會となるとて二例を擧げ且曰く有菌鼠肉とても沸騰點の熱度に逢ふときは「ペスト」菌は勿論死滅し肉其ものは無害なるべしと雖も是れが調理に使用せる庖丁、爼等の消毒を怠り引續いて漬物の如き直に食し得べき食料を切る又使用せる爲めに感染を招くに至るや明なりと

本年一月臺南市及安平街を限り驅鼠の手段として懸賞法に依り捕鼠買收を開始せられたる以後は本島人の投機心に富めると鼠族は「ペスト」發生の最大因たることを覺悟したるとに由り數百年來鼠肉を愛食せるの風習は俄然一變し爭ふて鼠族を捕獲せるも之を食ふことなく悉皆鼠族買收所に携來するに至れりと

●臺南廳防疫部の驅鼠方法

鼠族捕獲の方法は器械的、化學的、理學的、生物學的法の數種なりと雖も防疫部に於ては最初化學的法に則り砒石劑を使用したれども著るしき効を奏せざりしを以て之を止め單に器械的法のみを用ゐたり器械亦數種なりと雖とも簡易にして各家共に行ひ易き左法によれりと



（茶碗捕）小碗（杯）等右圖の如く（イ）を置き落花生製

菓子(ロ)を其下に挿み小碗の絲底の上に大碗椽(ハ)を載す然るときは大碗と土盤の隙間より鼠は潜入し菓子を引く玆に小碗動き大碗の緣は忽ち小碗より外れて鼠は大碗を被りて中にあり今之を採り出さんとするときは大碗を少しく提擧するときは鼠尾を出す該尾に絲叉は紐を付け大碗を除き撲殺す

大鼠を捕ふるには大碗を下に置き面桶(西洋水鉢)を上に置く此法は大抵百に一を誤ることなきのみならず更に器械を購入するの煩なく經濟上亦利ありとす

上述の方法により臺南廳にては自一月二十一日至八月三十一日鼠族の捕獲數は臺南市戶數一〇、九〇二に對し捕鼠數八一、〇五〇一戶平均七匹强にして安平街にては戶數一、一一〇にして捕鼠數四、七三三にして一戶平均四匹强なりしと

次には臺南に於ける驅鼠法と「ペスト」發生の關係とを一々統計表に照して詳說せられ第六に於て左の如く結論されたり

●結　論

一、鼠族は算數の如く蕃殖するものにあらず

二、鼠族は全滅すること難事にあらず

三、驅鼠法は「ペスト」豫防に優效あり

四、本島人鼠肉を食ふの習慣を破り「ペスト」防遏の一大因となれり

五、驅鼠法により臺南市及安平街の「ペスト」を永年に滅絕することを得

●本年の虎列剌　本年尤も流行したるは香川縣にして岡山福岡之に次ぎ其患者九百名乃至二千余名に達せり其次は長崎大分兵庫廣島山口愛媛等にして全國患者の累計は一万に垂んとす但し患者の絕無とも云ふべきは東北幷に關東地方にして東京府下の如き極めて少數の患者と死亡數を出せしは幸なりき

●水道の濁りに就て　水道の濁りに就ては市參事會に於ても調査委員を設けしが水道部にて頻りに其改良の方法を講じ海外諸邦に於て應用しつゝある明礬淸澄法を採用すべきの議ありて衛生試驗所の試驗を求めしに十万分中明礬三の割合を投ずれば其濁りを

去るべく人身には何等の害なしとて此案を市參事會へ提出したりしに市長は羽村以西に沈澄池を設くる內計畫ありと述べ尙五名の委員附託となりたり

●行路病人と其原因　本市養育院が調査したる行路病人の原因に關し取調べたる處によれば是等の多くは自から招きたる放蕩浮浪若くは素行の修まらざるに起因するもの多きを占むといふ今其調査の結果を擧ぐれば左の如し

●自招的と認むべき者　（男）放蕩卅八、惰性廿三、飲酒十八、女色八、黴毒と女色五、投機失敗二、酒色十九、浮浪五十二、酒黴毒十五、犯罪三、黴毒十三▲（女）素行不修十七、放逸六、浮浪十、惰性四、飲酒三、犯罪一

●不可抗的と認むべき者　（男）疾病卅七、白痴七、商業失敗二、虛弱五、負傷五、無扶養者七、扶養者拘禁一、精神病九、癲癇二、兩眼失明二、老衰四、扶養者逝亡六、扶養者貧困四▲（女）扶養者疾病二、扶養者死亡一、扶養者貧困十三、無扶養者十、負傷一、白痴三、主家解散三、精神病一、扶養者失踪八、虛弱三、主家虐待逐斥十九、疾病十、兩眼失明商業失敗一

●人の生れ月と其身丈　米國一新聞記者の報ずる處によれば、九、十、十一、十二、一、二月に生れたる人は他の月に生れたるものゝ如くに身丈高からず殊に十一月生れの人最も然りとす又女子にして十二、一、二、三、四、五月生れのものも中間級身丈高からざる方なるが六月より十一月の間に生れたる者は身丈高く就中八月生れの者最も高しといふ是れ夏期に生るゝ子供は一般に善き食物と新鮮なる空氣を得るが爲めなるべしとなり

●レオマチスと密蜂　最近の時事新報に曰く米國にては密蜂を利用し之に人體を刺さしめてレオマチスを治療するの奇法おひ／＼行はれりと傳ふ人に注射する蜂の毒劑は蟻酸と稱する物にて現に世に存せり此蟻酸を製するには硝子罎中に密蜂を入れ怒らしむれば爲めに蟻酸を分泌す之をアルコホルに溶かし藥品として市場に出すフオルマリンの如きも又之より精製したるものなるが蜂より直接に刺さしめて治療するは初めてなりといふ米國にては時々突飛な療法を爲すこと多し

●洗濯ずきの人民　日本人は潔癖とも云ふべく入浴洗濯等の屢々なるは外國人の驚く處なるが聞く處に

よれば尤も洗濯ずきの人民は朝鮮の女なりとさしも外出嫌ひの朝鮮女子も垢じみた服を着すること丶夫に汚れし物を着せおくとは妻たるもの丶大恥辱として毎日川へ行つて列をなしポチャ〳〵洗濯なし働くといふ此等が朝鮮の衛生法に於ける賞すべき點ならんか

●クルップ病の發生　此病ひは實扶垤里亞に似たる傳染病にて咽喉腫れ上り呼吸を壓迫する病氣なるが我國には是迄餘り發生したることなかりしが此頃府下本所小梅業平町杉田某の長男(四ッ)は此病に罹り醫科大學に入院せりといふ

●脱毛を防ぐ一説　英國の有名なる動物學者アンドリウウィルソン氏の説に依れば普通禿頭即ち脱毛する原因は過度に頭髮を洗ふにありソハ天然頭部に脂肪質の分泌して毛髮を養ひ居るを若し過度の洗滌するときは爲めに天然營養の香油を奪ひ去り毛髮を枯死せしむる大原因に外ならずと云へり

●傳染病豫防の御守　日本橋區衛生協會雜誌第六十四號附錄として傳染病豫防の注意を平易に物せられたり時節柄適切なれは左に轉載す

青木英雲氏

▲衣服の注意

品物はあしくも清潔なるをよしとす
常に肌着を用ひ度々洗濯すへし
常に其大小、又はフランネルの腹卷をすへし
病人の見舞に行たる衣服は歸宅の上日向に干へし
涼しき時に浴衣をなすへからず
暑き夜中も物を被けずに眠るな
夜具は順ぐりに日向に干すをよしとす
夜着の襟は白キヤラコを用ひ度々洗へ
蒲團には白き上敷を用ひ度々洗ふべし
夜具戸棚は清潔に掃除すべし
枕紙は布片となして度々洗ふをよしとす
古着を買はゞ充分なる消毒して用ひよ

▲食物の注意

三食共時間を違へず一定の分量を喰ふべし
食物は其日限り殘らぬやう調理すべし
暴飲暴食は決してなすべからず
總て充分煮焼したる物をよしとす
夜深には飲食せざるをよしとす
さしみ、あらひ、其他總て生物を喰ふべからず
烏賊、蛸、海老、貝類は喰はざる方よし
干物類は消化あしきゆへ注意すべし
天ぷら、壽司、盛蕎麥、冷むぎは心すべし
生水、氷水、氷あづき、は飲喰せざるがよし
宵越の物は總て食はざるをよしとす
少しにても臭氣のつきたる物を喰ふべからず

若し腐敗せずと思ふも煮直して喰ふべし
香の物は煮沸ざましの水にて洗ひ喰ふべし
西瓜、眞桑瓜、桃、其他熟さぬ果物は害あり
生玉子は少しにても亂れたるは飲べからず
牛乳は充分煮沸て飲むをよしとす
馳走の品にあたりたりと言はれぬやうにせよ
客の馳走には玉子、鮨、牛鳥肉、新しき魚をよしとす
酒は上等な少量に葡萄酒も少量は害なし
折角の馳走なりとも害ありと思ふ物は喰ふな
祝ひ事ありとも害ある馳走はよすべし
年忌法事の精進料理は腐れ安きゆへ注意
不幸の通夜に多人數集りて飲喰すべからず
病人の見舞に行て飲食すべからず
彼岸の配物は互に見合す方よろし
進物には食物を使はざるをよしとす
飲食物に蠅のたからざるやう注意すべし
潔をせざる飲店の食物は買ふべからず
蠅のたかりたる疑ひある物は煮燒して喰ふべし
子供の手は不潔がちゆへ手代が紙にのせて與へよ
土間、板の間、疊等へ落したる物を喰ふな
飲食器は總て湯にて洗ふをよしとす
布巾は三度〳〵洗ひ乾かして仕舞置くべし
食物を入るゝべき戸棚は日々掃除すべし
臺所は食物の調理場なれば殊更清潔にせよ
(以下次號)

●東京府死亡數　本年一月より六月に至る上半期間の總死亡數は二萬〇八百四十八人(内東京市一萬四千〇五十五人、郡部六千五百八十四人、島嶼二百〇九人)にして之を月別とすれば

一月	三、九六七	二月	三、三八一
三月	三、三三二		二
五月	三、四四一	六月	三、五〇五

即ち一日平均百十五人、十二分間に一人づゝ死亡する割合なりといふ

●精神病者慈善救治會

精神病專門の大家として聞えある吳博士には今回題號の如き救治會を創設せられんとす貴婦人中にも頗る贊成者多しと聞く今其梗概を記さんに同會の目的は慈善の道により貧困なる精神病の治療看護を補助するにありて

一、公立瘋狂院　施療患者に職業を授け慰樂を與ふる爲めに費用を補助すること
二、公私立瘋狂院の自費入院患者にして資力足らざるものゝ費用を補助す
三、精神病患者にして費用の爲め治療の資力に乏しきものを補助すること
四、公私立瘋狂院　入院患者の家族にして患者の疾病治療の爲に貧困するものを補助す
五、公立病院施療より治療又は半治して退院せる者を再たび處世に復せしむる爲に補助す

此目的を世間に明白にせんが爲めには精神病の病症

原因豫防治療に關する意見を發表し罹病を未發に豫防すること發病後は速に入院すべき事を奬勵し精神病者救治の公衆問題として緊要なることを演説著作等により世間に明示し其救治に關する設備の整頓を勸誘し之に關する輿論を喚起することを力むべしと

尙同會々員は同會の目的を贊成し金員物品を寄附する婦人諸氏を以て組織し同じく男子諸氏を贊助員とし夫々役員を撰擧し會員及贊助員は少なくとも一年金壹圓を寄附するものとし役員會に於ては名譽會員をも推選すといふ今日迄日本に此等救護の團體なきは實に遺憾なることなれば慈善に富める貴婦人令孃方の贊成により盛況を見るは期して待つべきなり



大日本婦人衛生會記事

●本會十月例會

本月四日第一土曜日午后正一時より麴町虎の門内なる東京女學館講堂に於て開きたり秋期初ての集會なりしかば會員も續々參集し役員には鍋島會長を初め濱尾副會長、幹事高木かう子、羽田三緒子、松平芳子、評議員宮本樂子、岡山とし子、幹事三浦敎子、評議員松井子爵夫人、濱田すて子、德島靜子、幹事鳩山春子(出席)諸氏の出席あり例により醫學博士三宅秀君には、家庭看護法に關し前回に引續き講演せられ次に醫學士佐藤達次郎君には內臟外科の話と云へる演題に就き卵巢膿腫腎臟病等外科の手術を要せし實物參考品を會員に縱覽せしめて演説せられ午後四時頃散會せり

●山形支會九月例會

九月十三日第二土曜日午後一時より例會を山形縣女子師範學校内に開き吉村講師には救急療法に付北島醫學士には鑛泉療法に付て講話あり會員其他女學生の傍聽二百餘名にして三時過散會せりといふ
因に記今回左の特別會員諸氏を評議員に推撰せりといふ

評議員推撰

仝　特別會員　中原きゑ子
仝　特別會員　牧山その子
仝　特別會員　亀山さと子
仝　特別會員　堀　しか子
仝　特別會員　柴崎けん子
仝　特別會員　磯貝きみゑ子
仝　特別會員　高橋まさ子

●茨城支會九月例會

九月廿一日第三日曜日午前九時より茨城支會の例會を好文亭に於て開きたり波多野醫學士並に他の醫員差支ありしをもて看護學に關する講話は之を缺けりされども幸ひに報效義會長郡司大尉演説並に随行員藤井直喜氏の各地經歴談等あり何れも有益にして婦人に適切なりき午後三時半閉會せりといふ



●本會入會者

○事務所申込
●山形縣米澤市免許町千三百六十九　通常會員　猪股はる子

○本郷　關野小枝子紹介
●本郷區駒込追分町三十一番地　特別會員　中村銑子

○大森　西鎌子紹介
●本郷區眞砂町三十四番地　通常會員　平野増子

○事務所申込
●筑後國三池郡大牟田町大字橫須　賛成員　猿渡徹君
●麻布郡宮村町六十七番地　賛成員　芳川格君
●長野縣植科郡松代有樂町　通常會員　堀雪野子
●麹町區有樂町三丁目一番地　通常會員　岡村まさ子
●本郷區弓町一丁目九番地　通常會員　宇野きみ子
●日本橋區濱町弖丁目楠田病院内　通常會員　金井さとえ子
●本郷區湯島六丁目十番地　通常會員　田中恒子
●日本橋區久松町二十九番地　通常會員　平野ますこ
●仝　所　通常會員　宮田ちか子
●神田駿河臺朗介病院内　通常會員　荻野千春子
●埼玉縣栗橋町六十六番地　通常會員　柿沼福子
●奈良縣南葛城郡御所町東代官町　通常會員　早川しか子
●滋賀縣東淺井郡速水村大字猫口　通常會員　武田まち子

○本會　特別會員加藤常子紹介
●鳥取縣伯耆國米子町鐵道作業局官舎　通常會員　林まさ子

○長野　小林よしの子紹介
●長野縣更級郡鹽崎尋常小學校内　通常會員　酒井れい子
●仝　所　通常會員　澁谷そみ子
仝縣仝郡榮村尋常小學校内　通常會員　平林ふじい子

○山形支會より轉入
●麻布區櫻田町二十四川瀨氏方　特別會員　太田梅子

○麴町區　米井つる子紹介
●麴町區内幸町三丁目五番地　通常會員　磯野きく子

○小石川　佐藤俊子紹介
●小石川區豐川町女子大學校第二寮　通常會員　友近里子

○本郷　安達たか子紹介
●本郷第一醫院内　通常會員　高木むら子

○深川　飯田たい子紹介
●淺草區駒形町三十二　通常會員　橋本いま子

○長野　一會員紹介
●長野縣更級郡眞島尋常高等小學校内　通常會員　山口うら子

○神田駿臺　尾花よし子紹介
●神田駿河臺町濱田病院内　通常會員　新江よし子

○麴町　久保田不二子紹介
●長崎市西山町十一番戶　通常會員　中村千代子

○本會幹事　岡田德子紹介
●牛込區市ケ谷仲町五十七番地　特別會員　藏田志げ子

（以下次號）

●新刊紹介

醫學博士　三島通良著

日本健體小兒の發育論　全一册　二百五十餘頁　實價七十錢

東京京橋區銀座一丁目廿二番地
大日本圖書株式會社

本書は著者が一萬七千餘人の男女兒に就きて其發育を精細に調査し之を歐米の小兒の發育に比較論議したるものにして此調査によりて本邦小兒の發育標準を作り又本邦人種早熟の問題短身の理由を論じ以て醫學人類學、教育學、心理學、法學研究上に至大の指導を與へたる三島博士の大著述なり

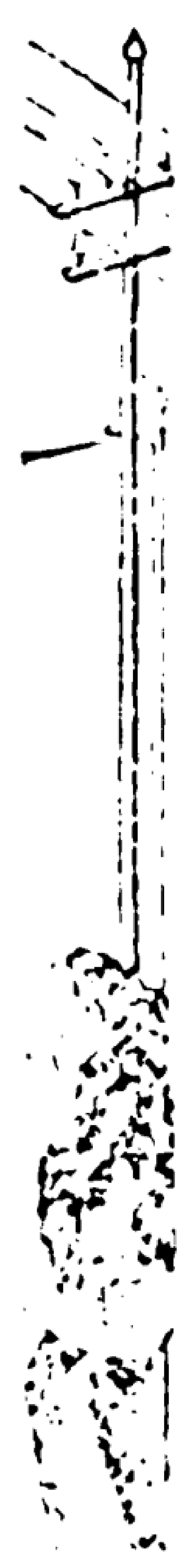
●交換寄贈雜誌（新刊分）

（括弧内の數字は一册代價・以下は圓以下）

日本婦人　麴町區元園町二ノ四（・一五）　日本婦人協會
日本赤十字　京橋區南傳馬町一（・〇八）　日本赤十字發行所
防長醫事　山口縣山口町（・〇六）　防長醫事社
統計集誌　京橋區瀧山町（・二五）　東京統計協會事務所

おんな　麴町區下二番町三七（●一五）　大日本女學會
體育　麴町區飯田町三丁目（●一〇）　日本體育會
大日本私立衛生雜誌　京橋區宗十郎町七（●二五）　大日本私立衛生會
通俗衛生　大坂市東區淡路町（●一二）　大坂私立衛生會事務所
農產時報　府下淀橋（●〇五）　農產商會
藥石新報　大坂東區今橋（一枚●〇一）　藥石新報社
婦人新報　赤坂區榎坂町（●〇五）　婦人新報社
愛國婦人　麴町區下二番町（一枚●〇三）　愛國婦人發行所
帥樂新聞　大坂心齋橋（一枚●〇二）　帥樂新聞社
產婆學雜誌　日本橋區濱町楠田病院（●一五）　日本產婆學協會
婦人世界　大坂市南區末吉橋通（●一〇）　浪華婦人會
教育實驗界　本鄕森川町一（●一〇）　育成會
東京教育雜誌　神田一ツ橋通廿一（●一〇）　東京教育雜誌發行所
藥學雜誌　牛込區新小川町二ノ八（●三〇）　日本藥學會事務所
廣島衛生醫事月報　廣島市猫屋町（●〇五）　廣島衛生醫事月報社
婦女新聞　神田三崎町一丁目（一枚●〇三）　婦女新聞社
越佐教育雜誌　新潟市寺裏通（●一〇）　越佐教育雜誌社
國家醫學會雜誌　本鄕區元富士町一（●二一）　國家醫學會事務所
日本橋區衛生協會雜誌　日本橋區蠣殼町　日本橋區衛生會
新潟縣衛生會雜誌　新潟縣廳內　新潟縣衛生會
佐賀縣農會雜誌　佐賀縣杵島郡北方村　佐賀縣農會事務所
健康乃栞　廣島市中島本町十四　健康乃栞社
工業雜誌　京橋區尾張町一ノ一（　）　東京工業雜誌社
山陽新報　岡山市榮町　山陽新報社
明行會雜誌　芝三田綱町　明行會

神經學雜誌　小石川區駕籠町東京醫科大學精神學教室內　日本神經學會事務所
開恩　京橋區築地三丁目九十三　光ノ庭社
佛教　淺草區新田町十　佛教社
大坂通商新聞　大坂東區平野町　大坂通商新聞社
大坂醫學會雜誌　大坂東區淡路町　大坂醫學會
醫學界　神田區錦町三ノ二十一（一枚●二五）　醫學社
日本學生新聞　赤坂區丹後町五十一（一枚●〇三）　日本學生新聞社
衛生實鑑　愛知縣岡崎町唐生番外　滋養堂



轉居

（但二ヶ月分）

會員諸氏御轉居の際は可成新舊兩所●●●●●●●●●●御記入事務所宛御一報相願候

長野市千歲町二十三へ　山中いし子
京橋區築地三丁目十五番官舍花田方へ　深澤米子
台灣台北府前街一丁目十五番戶へ　山本とき子
台灣雞水港新街官舍へ　岡田初子
三河國岡崎町所生へ　松山順子
熊本市高田原知足寺町若間上三方へ　三保江つ子
芝區白金三光町五百十九番地へ　山路末子
越後國長岡町新町へ　近藤雛子
長野縣長野市横澤町乙第一番地ノ內壺番へ　菅田ふみ子

千葉縣千葉町市場坂下二六八田村幸太郎方へ　川崎ゆき子
清國北京公使館内へ　服部繁子
薩摩國薩摩郡宮三城村へ　山内芳子
小石川區小石川原町五十五へ　宮崎よし子
赤坂台町六十一　武内有樂子
赤坂仲ノ町へ　石田糸子
麻布區三軒屋町二十九へ　森その子
芝區三田四國町二番地一ノ一へ　長野敏子
台灣台北北斗殿万與土地調査局派出部へ　飯塚けい子
本郷區本富士町貳番地へ　立川よね子
長崎縣東彼杵郡木村小路へ　朝長たつ子
愛媛縣松山市杉谷町二十番戸へ　漆原せい子
台灣台中廳課長官舍第三ノ三へ　森田光子
熊本縣飽託郡島崎村硒場へ　廣瀬しげ子
渡島國函館汐見町へ　西川ふみ子
麴町區上六番町七番地志賀方へ　村山靜子
芝區城山町八番地へ　大関榮子
神田仲猿樂町十七番地二ノ十二へ　根本郁君
仝　所　仝てつ子
房州北條町新宿晋紀方へ　村松しん子
本郷區西片町十番地ろの十號へ　關野小枝子
麴町區富士見町二ノ三番地へ　太田元惠子
奈良縣奈良市縣立高等學校内へ　田邊淑子
丹波國宮津町字鶴賀三十八番地へ　高木とみ子
麻布市兵衞町二ノ八十八川村氏方　落合あや子

千葉縣長生郡帆丘町本納へ　石井せい子
岐阜縣惠那郡坂下村中野屋方へ　澤米子
麴町富士見町五ノ十番地へ　青戸さく子
豐多摩郡大久保村大字西大久保四四七へ　前田とよ子
京橋區西紺屋町八へ　竹内かね子
山形縣西村山郡大谷村字大沼へ　小林さの子
相州鎌倉小町關保兵衞氏方へ　廣崎こと子
京都市土手町エベス川上りへ　細木とみ子
淺草區小島町七番地内山方へ　深谷錦子
本郷西片町十番地はの十九へ　佐藤みさを子
横濱市西戸部町百十八番地へ　西巻いつ子



私立大日本婦人衛生會

新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓 特別會員毎月金參拾錢通常會員仝金貳拾錢 支會員甲毎月金拾錢乙仝金五錢●第三條入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし ●第四條會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條 會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して 衛生慈善資金とす●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く 會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す 各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を舉行す●第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の 有志者より物品の寄附を募ることあるべし 會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條 一般慈善事業の賛助天災事變の救濟の事務は 役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條 特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

事務所新潟市旭町一番町十番戸
河上フサ子方

明治廿九年四月創立

新潟支會

私立大日本婦人衛生會

山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す 役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし 本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より 六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は樸誠質素なるを要す上着及羽織は綿布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築西通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會

宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ届出ツベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二ヶ月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又タハ知合ノ婦人ヲ誘引シ臨聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ綿布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條 特ニ支會規則ニ揭ゲザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

私立大日本婦人衛生會　茨城支會規則

開設の趣旨及目的

第一條　凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可からず之を望まんとするには必ず衛生と相俟ちて而る後ち始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に限して更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生上の事項をなして益研究し益改善を圖りてその發達を互に努め力めんとするに在る而已●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に置く●第三條　本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本支會事務所に申込むものとす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖も徽章代は豫め前納せらるべし●第五條　會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むると●第六條　男子にして本支會の趣旨を贊成する者は之を贊成員とす其の會費は本支會員に全じ但し本支會に功勞ある者又は本支會に於て贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本支會事務所に報知すべし。（死亡等は親戚知人より通知せらるべし）●第九條　本支會に左の役員を置く支會長一名、副支會長一名、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互選分擔す●第十條　役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●第十一條　本支會長は本會を總理し副支會長は支會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し會計書記庶務各其事に當る（但し書記は都合により定員外のものに臨時依托する事あるべし）●第十二條　集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會八月を除く外毎月一回第三の日曜日に之を開く總會は五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし●第十三條　毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講義演説又は之に關したる實驗等をもなし本支會員に聽講せしむ但し會員は知人家族を誘引して參會することを得（此際出席の衣服は總て質素たるべし）●第十四條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず但し贊成員若くは會員の紹介ある男子は此限りに非ずと雖も本支會の都合により臨時謝絕することあるべし●第十五條　毎會開會の實況等を本部へ通報するものとす●第十六條　會計本支會の所有金は本支會の名義を以て第百四銀行に預け置くものとす●第十七條　本支會々費の收入金は其一部を便宜に本部へ回送するものとす●第十八條　總會に於て會計の收支決算及成績等を報告するものとす●第十九條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるべし●第二十條　茲に記述したる數條の他その必要と認むべき事項あらば成るべく本部の規則を適用するものとす●第二十一條　本支會規則は本支會長の意見又は會員二十名以上の贊成により總會の意見を經るに非ざれば漫に之を變換する事を得ず。

明治三十四年十月創立

水戸市上市川見小路二十五番地

茨城支會

私立大日本婦人衛生會　高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條　當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するを目的とす●第二條　當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄合町五十番地に置く●第三條　當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條　本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三個月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條　當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす●第六條　當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條　支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條　役員は役員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は會員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條　本會の特別贊成員を定員外の評議員とす●第十條　當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條　會員及贊成員の家族並に篤志贊成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絕することあるべし●第十二條　本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす●第十三條　總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三箇月分以上前納すべし●第十四條　支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條　會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條　本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは評議に諮るものとす●第十七條　會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に勵行すべし●第十八條　特に此規則に掲げざる者は本會の規則を準用すべし

事務所　高崎市寄合町五十番地

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表章するため左の徽章を用ゆ

第二條　會員章は本會并に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ





● 通常會員章

第三號　メッキ製拾五錢、送費六錢

第二號　正銀製五拾錢、送費六錢

● 終身及特別會員章

第一號　壹圓、送費九錢

●入會注意

㊀御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと ㊁東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼ね會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候也但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候なり ㊂追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす ㊃會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込郵便局）宛振出あるべし又價格表記郵便、何にても差支なし ㊄會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし ㊅轉居せられたるときは其旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

廣告料　一行十錢　一頁參圓　本誌一部定價十五錢

東京市牛込區矢來町三番地中丸、四

發行所　私立大日本婦人衛生會

東京牛込區矢來町三番地

編輯兼發行人　田中徳三郎

東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

印刷人　渡邊智

明治二十六年四月五日第三種郵便物認可
明治三十五年十月廿一日發行及印刷
軍人衛生雜誌第百五拾五號（毎月一回十五日發行）

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
株式會社秀英舍第一工場印刷